

## 第五章 記念講演

### 「世界理解と平和」

アジア学院理事長

高見敏弘先生

# 記 念 講 演

## 講 師 紹 介

会長 大 塩 直 文

本日「世界理解と平和」と題しまして、ご講演をいただきます。高見敏弘先生をご紹介申し上げます。

先生は1926年9月現在の中華人民共和国の撫順にてお生まれになり、現在55才になられます。ご両親は九州の方と伺っております。

現在、学校法人アジア学院理事長の職につかれ、併せてアジア農村指導者養成専門学校の校長をつとめておられます。

先生の現在迄のご経歴は、こう申し上げますには失礼にあたるかと存じますが、まことに波乱万丈、真実は小説よりも奇なりと云う言葉がぴったり、戦後復員されてから、敗戦後の数年間にわたる社会混乱時代は、私にとって、生きることへの執念と、食べ物の大切さにこだわり続ける事を身につける重要な時であったと、先生ご自身が申されておられます様に、土方、沖仲仕、鳶職、かつぎ屋、塩炊き、貝掘り、占領軍家庭のボーイ等、更にはにわか仕立のコックなどをされたときいております。

30年前あるきっかけで、洗礼を受けられて、クリスチャンになりました。亦、ふとしたチャンスで、8年間米国に留学され、ドーン大学、エール大学大学院、フラー神学大学院を卒業されました。その後東南アジア、アフリカの農村開発、救援活動等にご尽力せられ、約10年前現在の地、西那須野町槻沢にアジア学院を設立され、後進国の農業指導者の育成に全力を投入されておられます。

以上簡単ですが先生のご紹介と致します。

# 世界理解と平和

アジア学院理事長 高見敏弘先生

只今、ご紹介にあずかりました、アジア学院の高見でございます。

今日は西那須野ロータリークラブの創立10周年記念の行事にお招きいただきまして、亦参加させていただくと云うことを、心から感謝を申し上げたいと思います。又先程は10周年記念の行事の一つとして、アジア学院に集って来ていますアジア、アフリカ



の研修生の為に奨学金をいただきまして、本当に有難うございました。

実を申しますと、西那須野ロータリークラブから奨学金をいただきと云うのは、今回が初めてはありません。例年励ましまして、具体的な形でアジアの人達の為に下さっております。常日頃衣類でありますとか、様々な便宜を計っていただいております。亦医療の行為でありますとか様々な実習、農家の実習、農機具の実習とか、そういう面で会員の方々に常に気をつけていただいておりますし、不慣れな日本語で、片言で話し乍ら買い物に参りますと、必ずと云ってよい程、会員のお店に呼んでいただいております。お茶をよばれて帰ってくるとか、自動車ですべて送っていただくとか、忘れ物をして、例えば町のお店にカメラを忘れてきたと云って、真っ青になって事務所にやって来た人がおります。そうしますとすぐに電話がかかってきて、「お宅の学生さんがうちにカメラを忘れていった。うちに置いてあるから、今度来た時にとりに来て下さい」そう言った事がどれ程、日本全体の日本人の印象を良い印象として、彼等の心に植えつけているか、計りしれないものがございます。私もこの国の国民の一人として、常に様々な形でアジア学院の研修生を励まし、又研修の為に具体的な形で力を下さっております。西那須野ロータリークラブの皆さん方に、この機会に心からお礼を申し上げたいと思います。又、リストを見せていただきましたところ、地域全体のロータリークラブの皆様、多勢今日はいらっしゃっておりますが、この際大変借

越ですが、そう言った方々にも、又町長さん、県会議員の方々にも同じ様な事でお世話になっておりますので、お礼を申し上げたいと思います。

又会員の中には名誉理事或いは理事さんとして、アジア学院の運営に様々な形で力を貸して下さっておる方もございます。

最近私達は様々な形で寄進をいたゞいているからには、なるべく無駄を省いてやってゆかなければならないと云う事で、学校の暖房の多くの部分は、ドラム缶を改造した薪ストーブでやっております。例えばクラブのお一人である郡司さんが、農機具の梱包材料の板をわざわざトラックで運んでいたゞきまして、それを皆で朝の仕事に鋸で挽いて暖房をするというような事です。

難民一家を私共も引き受けているのでございますけれども、その中学校へ行っている3人のお世話を全部引き受けていたゞいておるとい様な事で、私共は、本当に心から感謝を申し上げている次第でございます。

本当に一つ一つ数えあげますときりが無い程、いつもお世話になっております。大体開発途上国、遅れていると云われている国の人達は、よその国、特に経済状態がよろしいとか、軍事力が強大であるとか云われる国の人から、何かをしていたゞくことは、当たり前である様に思っていることが多いのです。従って個人的にお世話になっても、手紙一本お礼が来ない、帰国してから何の音沙汰も無いというのが、実は大多数なのですが、私共が大変喜んでおりますのは、大変お世話になった地元の方々、西那須野ロータリーの方々、或いは近隣の他の町村のロータリーの方々であるのか、或いはライオンズの方々にも、個人にもお礼状が行きまして、中には二年も三年もたってもクリスマスの時には必ずカードをもらうことがあります。日本で途上国の青年男女をお世話をした中では大変珍しい例であろうかと思えます。私共の所にはお礼状が来ない場合でも、地元の方に手紙が来ると云うことを、間接的にその様な方から伺いまして大変喜んでおります。その様に私共の仕事が地元の方に助けていたゞいておる、と云うより一緒に参加をして、そしてもっと親身になって、日本の人達はこんなに親切だと云うことが、帰ってからも印象に残った結果、全体から見ると大変稀な事ではありますが、お礼状が来ておると云う事は本当に素晴らしい事であると思えますし、そう云う事を皆様方にお礼を申し述べたいと思う訳です。

毎年そう言った私共の感謝の心をこめて、一年に一回、10月の中旬にはアジア学院の収

穫感謝祭というのを行っております。今年はタイの卒業生34人が、自分達で旅費を作って、たった2日の為にやって参りました。彼等は「西那須野は私達の町です。アジア学院は私達の家です。本当にお世話になった方にも一度逢って、そしてもう一度感謝の喜びを分かち合いたい」と揃ってやって参りました。この様に親身になって日本の人達にお世話になりました。それが今の私達の仕事に大きな力になっています。9年目でございますが育ちつつあると云うことを皆様方にも知っていただきたいと思っております。

今年は7年程前に卒業したお母さんが、自分の娘を是非訓練してくれと云うことで連れて参りましたので、姉妹揃って引き受けております。又稀に卒業して帰国した方の奥さんが、主人と同じ様に研究したいと云って、今二人来ております。この様に奥さん、兄弟、子供が来る様になっている。これも私は地元の方々が常にホームシックにならない様に家庭にお招き下さったり、衣類をくださったり、そういう事が大変大きな役割を果たしていると思えます。

勿論会員の奥様も大勢見えておられます。子供さん達もアジア学院を訪ねて下さいます。また各家庭に招かれまして泊る、同じ町内でありましても、日本人の家庭に寝泊りしたことがないのではないだろうか、招いて下さる。本当に不安と喜びの経験をさせていただいております。

私はいつも紹介される時に「アジア学院の高見」と紹介されますし、私自身もどこ行きますしても「アジア学院の高見」というふうに自分の事を紹介させていただくことになっていきます。私にとりましても、アジア学院というのは肩書ではありません。私にとっては、大事な大事な本当に私は生涯、そしてこれからも、倒れてしまうまで、役にた、なくなる迄、私のすべてを注ぎ込ませて、やらせていただくまで、……有難い仕事の事です。アジア学院とは、私にとっては本当にすべてでございます。私は個人的にも、亦色々協力して下さる皆さんと一緒に深めた経験のすべてを、その為に注ぎ込んで、大袈裟に言いますと、生涯の全部を打ち込ませてもらった。有難いと思える大切な仕事であります。生涯を打ち込むとか、命をかけると言うと、大袈裟に聞えるのですけれども、別にそんなに難しいことではありません。毎日毎日、一刻一刻をその為に最善を尽す。又失敗の方が多いのですけれども、然しいつもより良くそれをやらせてもらう、刻一刻その為に全力を尽す。仕事も生活も家族を全部あげて、考えも言うことも全部あげて、その為に打ち込ませ

でもらったら、それに越した喜びは無い、と言うふうに私は思っております。それが私にとってはアジア学院と云うことをごさいます、何も私はそれを独り占めしたことではございません。

先程お礼を申し上げましたように、皆様方がこの仕事を陰になり、陽になって一緒にもりたて、もらっている。そのすべてが私にとっては、本当に夢のある、生き甲斐のある仕事であるとそういうことをごさいます。

私は思いますのに、社会の中で他の人より早く生れて、沢山の経験を持っています私達は、これから生れて、これからの社会を任せて行く一人一人が、何もこの地域に限った事でなく、日本全体そして世界中の人達、青年男女達が、本当に一人一人に与えられた能力とか機会を全部使って、これこれは自分が生涯を打ち込むことによって、立派な生き方をしていきたいと思う時に、それを実現させる様な社会を作っていくと言うことが、結局、世界全体の平和につながっていくというふうに常日頃思っております。

何がそれでは人間の世界平和であろうかと考えますのに、一人一人のこの世に生れて来た人間が、夫々の持ち味を十分に生かせる、夫々に与えられた賜を十分に生かして、そして人々の命を支える様な大事な仕事に打ち込んで、それで一生を費すことの出来る社会の状態、それが平和であると私は思います。

自分のやりたいことがやれない、或いは自分の能力を認めてもらえない、自分の願いは半分も聞いてもらっていない、家庭に帰ってもそうであると言うのでは、平和は無い。私はその様に思います。勿論、戦争がおこれば個人の意志とかは、必ず無視される訳でありますから、そう云う意味でやはり私は戦争は出来ないなと思います。

とに角、平和と言うものは一人一人の人間が、持って生れた良いものを全部発揮出来る様な、そして生涯をこれこそ自分が一生を打ち込みたいという正しい良い事を人々の為に行う、その様な社会、その状態が平和と申しますし、私達一人一人がそういう社会を作っていくという責任があると思います。

ロータリークラブという様な本当に自発的に民間の自分の力をフルに生かし、持ち場持ち場で、その経済的な活動、文化的な活動を通じて、本当に皆の人間性がフルに成長する様に願望するということは、直接平和に貢献するものだとは私はかねがね思っておるものをごさいます。

アジア学院の仕事もそう言うことでございまして、私は何時も恐縮しております。私は一生懸命になっておりますと、私自身の仕事も、生活も考えも全部アジア学院と切り離すことは出来ませんから、とに角、話をすると必ずアジア学院のことが出てくるということで、これはひとつごかんべん願いたいと思います。

お陰様で、このロータリーの方々には、様々なお世話になっておりますが、九年目に遣入りまして、こゝ数年は、毎年35～36名の研修生が、アジアだけでなくアフリカの諸国からも来ております。最初の入学式は10人でした。その四月迄に着きましたのは3人で、よそに研修に来ておったフィリッピンの人まで借りて来て、並んでもらったような小さなはじまりでした。然し今では35人、来年度にはインドだけでも二十数人の申し込みがございします。国と国とのバランスがありますので、6人以上受け入れることは出来ませんで、大変頭を悩ましておるところです。

他に短期研修、例えば来週の卒業式には、韓国の卒業生が5～6人の農村の人達を連れて出席しますが、それと同時に短期の研修をさせて欲しいとのことです。短期の人達を含めると、何十人と云う人達がアジア学院で勉強すると云う様になって参りました。

私共の所に集って参りますのは、非常に困難の中にある辺鄙な農村地域で一生懸命働いて生きたいという目的と意識のはっきりしている人達、つまり奉仕の精神に燃えている人達を受け入れることにしておりますので、エリートであるという人達はおいでにならないようになっております。これがアジア学院の特色の一つにもなっておりますが、これが今後対日感情という面でも良い結果を生み出しておると私共は思っております。

私は仕事の関係で世界各国を廻る機会を持っておりますけれども、日本は世界でも珍しい庶民的な国です。庶民的と云うのは、皆大体レベルが同じ、教育も殆ど全部が同じ様な質の高い教育を受け、収入の点でも貧富の格差がそんなに無い、悪く云えば全部がドングリの背くらべ、皆平等な機会を持ち、言いたいことは何でも自由に言える。庶民的だと云うのはそう云うことで、庶民的な国なのです。ところが途上国と言われている国々では、我々が考えもつかない様な富を持っている人数の人達と、際立って貧しい人達が大多数であると云う国々が非常に多いのです。

……………そういう所からエリートたちが奨学金をいただいて日本に留学している場合、私たちが庶民的な感覚でもって、君たちは我々と同じ人間なんだから食事の準備を手伝っ

てくれと言ったりすると、彼等は大変なショックを受けるらしいです。アジア学院に来る人達、むこうでは学校の校長先生といった人達が、食堂の当番をやって皿の片づけをしなければならぬということになりますと大きなショックを受けるらしいのですが、アジア学院の場合では私たち職員が全員でやっておりますから、彼等もやがては積極的な姿勢になり、アッ私たちもこうして手足を使って仕事をしなかったら自分たちの故国も立派にできないのだとわかって帰っていくわけであります。

この様な受け入れ方をしなかった場合、例えば国際協力事業団などの対外関係の研修生を世話しておられる機関の方に、よくお会いするのですが、彼等が研修旅行に行く時、スーツケースや荷物を運ぶのは、引率者である受入機関の人々がやらなければならない。故国ではそうして荷物を運んでもらっているのですから、研修生達も当然のこととしています。うっかり自分のことは自分でしなさいと、言ったりすれば、カンカンに怒ってしまいます。

アジア学院の場合、開発途上国の中でも一番貧しい地域から、自分達が一番困っているネック、根底からこれを建てなおしていかなければならないんだという勇気に燃えている人達、はっきりとした目的、精神を持っている人にしぼって受け入れることにしております。そして帰国に際しては、涙を流し乍ら大変お世話になりましたと言って別れを惜しみ、近所の方々も別れがづらいと空港まで見送りに行って下さる。この様に庶民的なレベルの人達の交流が、日本と外国との関係をよくする上で、大変大きな働き、役割を果たしているのではなからうかと思えます。

しかしそうは言っても、私共の生きている世の中、社会の大きさは段々と変りつつあるわけです。例えばインド北西部のパミールという所は、インドの人でもメッタに行かないようなへんぴな所、そして自分の州の外へ出ることなぞ有史以来始めてというような所からやってきまして、科学の粋を集めたジェット機に乗って日本にやってくるわけです。

アジア学院の場合、それ程近代的な設備をしているわけでもなく、町から離れた山の中で簡素な設備であり農耕も機械でなく手仕事でやっております。それでも電気はあり水道もあり、テレビもあるわけです。こういう事はネパールとかアフリカのリベリア、ガーナなどから来た人々にとっては大変な驚きなのです。しかもテレビがカラーテレビであることは本当にビックリしております。



彼等は日本にいる間に、世の中が世界がそういう風に変って来ていることを見て帰らなければならない。そしてそういう中で文明的なしかもぜいたくな施設をもっている人々が果してどんな人間的な生活をしているのであろうかということを見て帰らなければならない。そして自分達の国でも何十年か先には、そのような文明社会がやってくることを目論みながら現在の農民達と共に働いていかなければならないのです。

天気予報を例にとりますと、人工衛星が写した雲の動きが北極から南半球まで画面一杯にうつされ時々刻々と目の前に再現されるわけです。それによって私達は今日の行動、明日の仕事の計画がたてられるわけです。また世界の出来事とか動向というものを認識しながら毎日の仕事の計画を進めるという具合になってきている。日本人の生活はそれが当り前になっているわけです。アジア学院に集ってきているアジア・アフリカの人達も将来は、同様にテレビや新聞を見ながらこれからの計画を樹てていかなければならない筈です。そうでないと世界の隅々まで一連のものとして連っている経済活動というものを健全に運営していくことができなくなってしまう、そういう時代になってきているわけです。つまり現在どういうことが世界全体として起っているのかということを見て毎日の生活を進めていかなければならない必要に迫られているからです。

いま、世界で大きな動きとしてどういったことが起っているのでしょうか。それは三つあると思いますが、その一つは、もの事を全体的に見なければならぬという考え、或いは意識を明確にもつこと、またそうした認識をもって努力していかなければならないようになってきているということです。つまり、一つの方針・政策を樹てるに当って世界全体のことを考えてやっていかなければならなくなってきたことです。そして世界全体を考えると、世界を二つにわけて考えなければならぬような状況が生れてきています。例えば南北問題にしても、南と北つまり貧しい国と富める国と二つに分けて考えなければなりません。また東西問題にしても資本主義の諸国と社会主義の諸国という二つにわかれ、そこに大きな危機というものがみられるわけです。

それと同時に私共は人工衛星を飛ばして地球を外から見る時代になっています。アメリカの地理学会の会長さんの話によりますと、人工衛星を飛ばして必要なら3時間以内に世界のどの地域で小麦やトウモロコシがどのような状況にあるのか全部キャッチできる、それによって世界の穀物収穫を予測することができるそうです。そのように世界の全体を見

ることが容易にできるようになったし、またそうしなければ、生活や経済活動の計画を樹てられない時代になってきたということです。

二つ目の問題は、今までの話と逆のこと、非常に細かい問題つまり人間が肉眼では見ることのできないような微細なものも私達には見る必要がでてきたし、人類もそうしたことを意図的計画的に努力を積重ねてきているということです。ミクロの世界、または見えない世界、そうしたものに対する関心も高まってきているわけです。

私は先頃病院で精密検査を受けてきましたが、30分ぐらいでレントゲンで頭の部分を輪切りにして1センチおきに8枚写しました。医師はそれを見せながら、あなたの場合にはこの辺が少し老化しているようだという説明で、私もまだ若いと思っていましたが、あれを見せられて納得せざるを得ませんでした。

そんなわけで、人間が自分の目で見ることのできない微細な分子や原子といったミクロの世界まで科学の力で見られるようになってきております。そういうものを見なければ、これからの人類の行動を計画的にそして平和で安全に進めていくことができないようになってきております。

第三にお話したいことは、人間の限界を知らなければならない、ということです。人間のやること、やれる事には限界があり、また限界があることを自分自身が知らなければならないということです。例えば資源は無限にあるのではない、石油の埋蔵量も底をついてきております。また無限と思われる水も海や河川、それに大気中の水分を合わせて何億トンとハッキリ計算されているわけです。私達は有限の世界に住んでいるということを悟りつつあるわけです。

戦争を防ぐ、戦争を止めなければならないとみんな言っており、誰もが平和への努力をしている、と思いたいわけです。ところが、実際には戦争のために傾けている努力、経費、エネルギーといったものは、平和のために費されるそれよりも、はるかに大きいのです。先日、国連の人がなげいておられました。それは、世界の国々で使っている軍備のための経費の0.1%しか平和のために使われていないということです。どうかこれを1%まで増やしてほしいのです。そうすれば平和のための力が非常に大きくなるのです。人類は口では平和を唱えながら、実際には自分達を破滅に導くかもしれない軍備のために大変な経費を投じている、そこにも人間の限界を見い出すことができると思います。

また私たちが作っている社会の組織、仕組みというものが、だんだん進んでいってそれが大きくなればなる程、一人一人の人間を、人間としてお世話すること扱うことができにくくなってくる。だんだんそれが難かしくなる。つまり組織が大きくなればなる程、一人一人のために心をくばるといことが組織的にできなくなってくる。そこにも一つの限界がはっきりと見られるわけです。

イデオロギーの壁、これも一つの限界です。私達の住んでいる日本にも革新とか過激派とかいって、この社会はダメだからヒックリ返してしまえばよいという無責任な考え方をもち人達がおります。その人達はベトナム戦争が始まったとき反米、抗米、アメリカをやっつけろと盛んに言っていたものです。社会主義こそ平和への唯一の途であると言っておったのに、その社会主義国家を作ろうとしている中国がベトナムに戦争をしかけたのです。またベトナムは人民を大切にしたらアメリカに勝ったのだといっているながら、そのベトナムが同じ社会主義国家である隣りのカンボジアとカラオスに大量の軍隊を送りこんで占領してしまっただけです。やはりイデオロギーといっても万能ではなくて、そこにも限界があるという事を考えます。

これまで世界全体の動きの中で三つの大きな変化を申し上げてきましたが、この三つの流れによって、私達のもの考え方、生活のし方に変化がもたらされていると思います。つまり人間の視点、考える坐標というものが今だんだんと変わってきている。その中で、これからの世界を考える上で大変に重要なポイントになると思いますので、ここで特に申し上げておきますが、基本的には二つのことを課題としてまた大切なこととして考えようとしているわけです。

その一つは、いのちに関する事です。いのちの大切なことは申すまでもないことです。私達の様々な営みのために環境が破壊されてきているということです。そのために有限の水が益々限られてきて飲む水さえも気をつけなければならなくなってきており、空気も汚染され、毎日使われる何万トンもの木材によって地球の表面にはヘドロがたまり、空気中の酸素が少なくなってきています。その結果、人間を始めとする生物が生きていくのにふさわしくないような環境になってきております。そして毎日々々の人間の営みのために、何千種という生物が地球上から失われていきます。いのちの何たるかを考え、自然の健全なバランスをこわさないで生命を大切にすることを急がなければなりません。

世界の人口は毎年一億二千万人も増えているのです。毎日三十数万人ということですから大変な数なのです。更に日本の様に、平均寿命が毎年一年づ、延びていく。今では男が75歳、女が78歳まで長生きする時代になり、これから先どういう変化が生れるか真剣に考えなければならない状況になってきております。私達は人間の命、又生物全体の命を、そしてまた広大な地球全体の命に就いて考えなければならない時期にきております。それについて考えざるを得なくなってきたり、大きな課題が又私達の中に、科学技術の進歩のお陰で、真剣な課題としてあがってきているということです。

も一つは、これは力、命を支えていく上になくってはならない力、ところがその力が逆に人々のみならず、世界中の命も滅亡させてしまうのではなかろうか。一体、力と云うものはどう言うもので、力と言うものをどの様に用いてゆかなければならないか、総ての力はどのような力であっても、人間の手の中にはしてはならない力というものは、どう云うものであるかと云う事を基本的に考えなければならない。と云う風に今はなつて来ていると云う事です。今日は本当にかいつまんで、こういう課題が、今人間全体として、或いは亦、世界の人類の全体を理解する為には、この課題についていよいよ考えを深めてゆかなければならないのです。その為には、今どんどん進歩している科学技術が大いに役にたつ。又その為こそ科学技術を我々は用いなければならない。そうしませんと科学技術と云うものは、我々の手に余るようになってきて、遂には人間の命を滅ぼすことになりかねない。そう云う瀬戸際で、命と云う事と、力と云う事について、私達は根本的にも一度人間として考える必要があると云う事です。

今迄の二つの課題の次に二つの結果があると思います。先進国と云われる日本では選択の自由がありまして、どれを選んで良いかわからなくなってきた。簡単に云いますと、何が大切だか、段々わからなくなってきた価値の混乱ということです。どれが大切か、今、私達がやるべき事、沢山やるべき事がある中で、どれをやったらよいのか、段々、誰にもわからなくなってきた。これは特に若い人達の中にそれが特徴として云えると思うのです。アジア学院には日本の青年達も随分と男女ボランティアとしてやって来ます。勿論アジア各国の人達もやって来ます。若い人達が多いのですけれど、皆大変熱心です。私達はなんとか、人の為に良い事をしたいのです。奉仕をしたいのです。こう云ってやって来ます。奉仕の意欲は、今、青年達の間では大変に高いものです。私は全国青年ボランティア集会

に時々出ます。ボランティアは本当に報酬を貰わないで、自分の体を張って、自分のやれることを人の為にさせて貰うと云う青年達が、今沢山出つゝあります。アジア学院の人達も、やっぱり自分達の国の貧しい人達に、何かしたいと思います。何でもやります、何でもさせて下さい。稲作でも、養鶏、養豚、酪農、山羊、兎、羊、それから食品加工、ジャムとか燻製のハムを作ったり、養蚕、織物、ラジオの修理、農機具の勉強、全部やる、一人で全部やりたいと云います。一年も居ないと云うのに、「あなた、それではボランティアとして何がやれるのですか」ときくと、「無いです」「何をやりたいですか」「何でも良いです」「あなたこれをという役にたつ、やれるものがありますか」「ないです」つまり焦点が絞れないのです。何が大切か、具体的に、これはと云う決断が出来ないし、決断の材料を持っていないのです。何をそれでは自分達が、自分の持ち味を活かして、これは、これをもって私は役にたとう、仲々焦点が絞れない。価値の混乱と云うものは、然し若い人達だけではありません。もう世界全体がそうでした、これはと云う焦点が絞れなくて困っている状況がある訳です。

も一つの結果はリーダーの欠乏です。これは当然、価値の混乱があり、何をして良いか世界全体或いは社会としてもわからない。焦点が絞れない、と云うことは、つまりリーダーがいないと云うことです。リーダーが一番大切なことについては私が今申し上げる事は何も無いと思います。

皆さん方は夫々大変な責任を持って、具体的な経済活動をなさっている方が、ほとんどでございますから。やっぱりこれはと云うことを示すのが、リーダーの一番大きな役割です。社会が混乱しておる、そう云う事をハッキリと皆の為に、又自分に対しても、今日はこれをやらなければ、一年としては、こう云う事を我々はやらなければいかん。生涯ではこの事をしぼって我々はやっていかねばならん。家庭においてもそう、子供達に対してもそうです。

リーダーの欠乏というものは、価値の混乱の中で、一番大切な、又深刻な結果であるし、又その事に私達は、焦点を絞って、我々は先ず、毎日の中にこれは、この為にかけてみよう、やって行くんだというところに地域のリーダーの大変素晴らしい、又なくてはならない役目があるかと思ひます。

アジアとかアフリカの場合も、本当にもう何もなくて、一年間の研究資金に1万円とか

2万円しか無いというところは、何をやって良いのかわからない状況にあるのです。

自分達の手の中にある手、足の力、考える力、耐え抜く力、土地の事を良く理解して、そこから築いてゆくリーダーを創っていかねばならないと思います。

深刻な状況にある中で、私達が大変な経験を積み上げて来ている私達が、他の人達と一緒に、今日はこう云う事をやらなければならない。明日、明後日、この半期、この一年、この先はこう云う事をやってゆこう、と云う計画を話せる様な見識を持つ、これがやはり私達の中では大切な事だと思います。

アジアからやって来る人達が、良く云いますのは、日本の社会は競争の社会で気が疲れる。いつも、何か競争をしている。しかも、それがあたかも悪い事である様に云う人達が随分とあります。私はそうではないと思うのです。これは何の為に競争するかと云うことが、その良し、悪しを決める。何の為に私達競争するかと云う事が、私達にとって一つの大きな課題だと思われまます。

私は色々な方とお逢いしますけれども、私共夫婦は、何時も私達が年をとったら、あの様な人になりたいなあ、と思うご夫婦がごぞいます。園芸の先生をしており、もう八十を過ぎております。私共は東京の西の方に住んでおりました時に、よくそのお宅に遊びに行きました。夫婦が歓迎をして下さいまして、園芸の先生ですから、周囲の庭は非常に手入れが行き届いていて、色々な木や草花が植えてあったり、置いてあったりします。失礼する時には鉢物とか、土に植えてあるものを掘って、贈り物にして下さるのです。「どうぞこれを持って帰って楽しんで下さい」とご主人が下さる時に、必ず奥さんが奥の方から「貴方それは駄目です」仲の良い夫婦ですが、いつも喧嘩をするのです。「その鉢よりこちらの方が良いじゃないですか」「いやこちらの方をあげたいです」「とんでもない、こちらの方がはるかに良いものだ」とさんざん私達の前で喧嘩をした挙句にこれと決めるのです。又ツツジとかサツキをとって下さる時にも、根を新聞紙でくるもうとすると奥さんが「お父さん新聞紙でくるんだら失礼ではありませんか、こちらに良い紙があります」そうするとお父さんの方は園芸専門家ですから「新聞紙の方が良いんだ、新聞紙をしめして根をくるんであげたら、その方が木の為にいいんだ」と、いつも喧嘩なさる。ところがその時の喧嘩というのは、後から考えてみると、いつも、どちらをしてあげた方が、他の人の為になるか、という事で夫婦は喧嘩をするのです。

私はこの間政府が発行している雑誌の中に、そのことについて書いたのですが、最近、私達の中には、本当にどちらをすれば、他の人の為になるかということで喧嘩をしている状況にあった事がない。国と国とが、先進国が途上国の為に本当に喧嘩をするのであれば、私はそれは大変望ましい結果であると思います。

私達の競争の社会の中では、お互いに切磋琢磨、どちらをする方が他の人の為になるかどちらをする方が全体の社会の為になるか、人類の為になるか、と云うことで喧嘩をする。それは必ず世界の平和の為になるだろうと思います。又この際一寸短かく申し上げたいと思いますが、インターナショナルという言葉は、日本語で云うと国際感情、或いは国際という事になるのですが、このナショナルと云うのは、国とか、国民、ある地域における民族がナショナル、そしてその人達の持っている文化とか伝統、こういったものがナショナルで、インターナショナルというものは、国家間とか、民族間の関係をいうのである。だからどちらでも良い。国際化が進んでゆくと、国籍が無くなるとか、色々な民族の文化がごちゃ混ぜになるかと云いますと、そうではないのです。ナショナルと云うものが、はっきりしておいて、はじめてインターナショナルと云うものがハッキリと形造られていくのです。

日本の外交官などが時々失敗するのは、八方全部に対して宜しいようにする全面外交、あ、云う事を云われると、その国は大変困るのです。「ハッキリして下さい」と、こう云われるのです。「貴方の考えは、全ての人に仲良くときこえている、具体的には仲々難しいですね」と云われます。「こうなんです、これはこうなのです、だから私はこんなふうに考えて、こんなふうにやります」と云いますと、アメリカの財務省の人達や銀行の大切な立場の人も、大変話がし易いだろうと思います。

とに角、仲よくしましょうと云われても、具体的にそれではどうするか、八方全部を良くするという事では、本当にインターナショナルは出来ないのです。

私達はある国から留学生を迎えると、話をすれば必ず議論し、相手を批判するけれども相手をけなすのではないのです。そういうふうにして話あいをするとう国から日本にやって来たとしますと、最初はお客さんであり乍ら無礼な批判をするなど思うが、私共は段々とこれに慣れてきますと、彼等と同じやり方で「じゃ、貴方の意見はわかりました。然し私はこう考えます」と。私達の考えはこうなんだと、日本では、こう云うもの、大切さ

をもって、こうやっております。これはこゝ数年のことではなくて、何世紀にも亘つての我々の知恵なのだ、ハッキリと云って、お互いの主張をぶつ、けあい乍ら、そこにより深い理解を高めていくという事を考えなければいけない。それを私達はどこで実現をしていくのであろうか。私は最近特に考えますのは、私共は自分達の経験で考える、これはやはり地方の人、ローカルと云われている人達の方が、より全体を視る眼を養う立場にある、より優位な立場にあると私は思います。東京とか、大きな所におりますと、段々と視野が狭くなって来るように私は思えるのです。活動の範囲が大都会であれば狭くなってくると云う面が随分今では進んで来ている様に思います。

私達の様にローカルにおいて、大都会で起っている事、海の向うで起っておる事全部を様々な方法で知る事が出来る、と云う立場の者こそ、本当に全体を視る眼を養い、又毎日細かい所を視る眼を養う、そして自分達の限界をキチンとわきまえておる。それはやはりローカルで、こじんまりした状況の中で、然も、自動車で廻れば自分達の住んでおる所をほゞ一時間位で見る事の出来る所で、全ての視点を養っている私達に特にそういう役割がまわって来ると、いうふうに 思っております。

その視点からしますと、この西那須野ロータリークラブは、そのサイズと言ひ、町の大ききと言ひ、そして様々な経験といふ、それが、やっぱり、これから私達が支えていかなければならないものを備えていくのには、大変良い立場におかれているのではなかろうか、これから、その様な特殊な素晴らしい状況を大いに活かして、これから先の社会の為に益々貢献をしていただく様なクラブとして是非発展をしていただくものだとは願うものです。

これで私の話を終りたいと思いますけれども、も一度、皆様方が常日頃、アジア学院創立以来、他の兄弟の為に、クラブの方々と一緒にご支援いただいておりますことを感謝を申し上げると共に、これからも宜敷くご支援いただきたいとお願いしたいと思います。皆様方からいただきました奨学金は、アジア学院の人達の為に全部使わせていただきます。そしてその人達は、この事を通じて、何千何万という人達の為に、その奨学金を活かして使うことを、こゝにお約束して私の話を終りたいと思います。

有難うございました。



## 第六章 十周年記念座談会

—— 揺り籠から

ガバナーノミニー誕生まで ——

昭和57年3月10日

於. 龍 鳳 園

〈出席者〉

福 本 治 夫	三 森 重 保
郡 司 昌 佳	大 塩 直 文
伊 藤 俊 三	佐 藤 悦 郎
君 島 六 郎	鈴 木 伊勢松
小 池 保	鈴 木 基 一
小 滝 信 光	手 塚 徳 次

大塩： 十周年記念式典も盛大に終ることが出来ました。そのしめくくりとして、クラブの十年の歴史を記録に残さなければなりません。特に創立当時の記録を何とかして残したい、資料は鈴木先生が保存されておりますが、その他のこまかい事とか、忘れた様なエピソードもあるかと思ひます。それも話していただきまして、歴史を飾り、更に将来の礎として我々の記憶に残っていることを出していただき、それを纏めたら良いのではないかと思ひ、本日お集りいた

だきました。



## —— クラブ創立までの背景 ——

鈴木(基)： クラブ創立以前の経過について申し上げます。西那須野クラブは割合簡単に出来たと云う印象があるかと思ひますが、数年間の生みの苦しみがありません。

町内から数人の方が大田原クラブへ行っておりましたが、ロータリーについては我々のクラブが出来るとは余り馴染みが無かったと思ひます。

たまたま私の大学研究室時代の友達に大勢のロータリアンがおりまして、彼等と逢う度にすすめられ、そうかなと思ひました。誰に相談して良いのか迷いました。当って砕けると云う気持ちで始めました。私の大学の先輩で当時県日赤血液

センター所長で宇都宮西クラブに齊藤七五三男先生がおられ相談しましたところ、直前ガバナーの金谷正夫さんに連絡してくれました。それが昭和43年10月2日でした。すぐ金谷さんから連絡がありまして、10月4日の宇都宮クラブの例会に来るよとの事でした。当時の例会場は栃木会館内の三笠でした。当日は金谷さんと江部さんが玄関で待っておられ、金谷さんのゲストとして例会に出席しました。その帰途今後のことを相談しました。

10月中旬に江部さんから連絡がありまして、小山へ来るよとのことで出向き、スポンサークラブの事で相談し、大田原クラ

ブにお願いする事にしましたが、会長の玉木さんでなく橋本善英さんに江部さんが連絡した為に、大田原では驚き、後で私は木村先生宅に呼ばれ、六項目程質問されました。

11月4日準備会を足銀西那須野支店で開くとの通知が江部さんからあり、大田原クラブから玉木会長、東郷幹事、橋本さん、川上さんの四人、当方から塩川兵三郎さん、伊藤甲太郎さん、宮沢勝さん、藤森武雄さん、足銀支店長和久井さんと私の六人が出席しました。その後11月11日に私達六人が集まり、クラブ創立の可否につき相談し、全員異議のない事を確認致しました。



11月13日に第二回準備会を宇都宮クラブの江部さん、青木さん、大田原クラブから川上さん、東郷さん、足銀大田原支店長が参集し、当方の意志を伝達し、特別代表を

川上安一郎さんに決め、区域は西那須野町塩原町とし、入会金、年会費も決めました。

翌年1月20日に拡大調査報告書の用紙を川上特別代表、東郷幹事が私の所に持って参りまして、作製依頼がありましたが、筋違いのことで固辞しましたが、遂に書くはめになりました。

その間私は創立会員勧誘の為に37名の方のお宅を訪問致しました。昭和43年10月5日から11月8日までの約一ヶ月で創立会員候補者の承諾を得たわけです。

拡大調査書を提出したので、この後は特別代表から連絡がある迄待つようにとの江部さんからのご宣託で待ちましたが、それから二年経過しても何の音沙汰も無かった訳で、その理由は今もって分かりません。

昭和46年7月下旬に伊藤俊三さんから突然呼ばれまして参りましたところ、他の奉仕団体の結成についての相談でしたので、私はその席でお断わりして、早速齊藤七五三男先生に電話で当地の現況をお話ししましたところ、滝沢ガバナー、坂本地区幹事に連絡をしてくれました。

7月30日に滝沢ガバナーから突然電話がありまして、8月1日に訪問するからキーマンを集めておく様にとの事でしたが、中一日しかありませんでしたので、皆仲々都合がつかず、伊藤甲太郎さん、福本さんと

私で拙宅でおめにかかりました。

その後、滝沢ガバナーと坂本地区幹事が大田原クラブに参りまして、当クラブを設立する事に話を決めて下され、特別代表に堀江さんになる事になりました。

創立会員は8月25日から9月4日までの短期間に決定しました。これは前回の事がありスムーズに決まりました。そして11月8日の創立総会に相成りました。

その時私は、拡大増強と云うのは周囲の温かい理解と援助、それに自分達の強い意志と、強い足が必要なのだと感じました。

福本： 鈴木先生のお宅で滝沢さんが申されましたのには、国際協議会の席で、RIから「西那須野はその後どうなっておるか」との質問を受けたそうですが、その経過を知りませんでしたので答えられなかったので、帰ったらすぐ創立しようと思って帰国したとの事でした。



その後鈴木先生が車で激しく訪問してあったのが印象に残っております。



伊藤： 他の奉仕団体からの働きかけがあったのですが、その当時はロータリーとの差も余り知りませんでした。

その位の者がチャーターメンバーになり会長にもなってしまったのです。

鈴木(基)： その事がありまして、ロータリークラブ設立の起爆剤にもなり、不思議に思います。他の団体はその時は出来なかったのです。

それにしましても江部先輩が粘り強く、数年に亘りまして、80才以上のお年で単身西那須野に何度もお訪ね下さいましたのには、頭が下がりました。私は江部さん、金谷さん、滝沢さん、坂本さん、その他の先輩に直接ご指導いただきました事を非常に有難く思っており、今日のクラブの姿があ

るのだと感謝の念で一杯です。



鈴木(伊)： 私は今になって考えるのですが、地区の組織があって、それが活動して設立してもらうのと、鈴木先生が一生懸命になって創立したと云う差が、今のクラブの活力になっているのではないかと思います。

ます。も一つは当時ロータリーの勉強をしていたのは鈴木先生一人ですよ。

当時から大田原クラブに数人行っておりました。ロータリー精神があるなら新クラブに移ると云う事があっても良いのではないかと思います。

福本： スポンサークラブがロータリーの説明をするからと云って、農民センターに集められましたが、二人が来た丈で、スポンサークラブが一生懸命でなかった記憶があります。

伊藤： 創立総会前の苦勞は今日、よく分かりました。ここに持ってきました創立総会々報をみますと、大田原クラブ会長の話の中にも出来る迄に四年位かかったと書いてあります。

## —— 発足当時を省みて ——

鈴木(基)： 郡司さんの会社の会長さんのところに参りましたら、うちの社長は若いからロータリーより他の奉仕団体の方が良いかもしれないと云われましたのにはまいました。

郡司： 他の奉仕団体は派手で、ロータリーは年配者が遣入っている位の知識しかなかったし、私はその当時は遣入る身分ではないと思っていました。



先生が三回参りましたので、随分熱心な人もいるもんだなあ、と云う事から、親が面倒みてもらえるならと云う事で退入することにしました。

鈴木(伊)： ロータリーに退入って一番苦痛だったのは週一度の出席でした。その当時は時間を余り守れなかったのです。一年たち、二年たつと習慣になり、一度も忘れた事はありません。この習慣がロータリーに入って一番の収穫でした。私はいかなる会合でも今は時間勵行して五分前に行きます。



小池： 議長になっても出席しなければならぬと思い、町執行部には火曜日には集会をはずしてもらいました。だから出られました。議長権限がありますから。今の商工会長の方が突然の用事が多いので、議長の時の方が出席し易かったと思います。

議長の時、は昼飯会員になってしまって申し訳ないと思っております。

伊藤： クラブ創立当時鈴木先生は娘さんが喘息で生死の間であり乍らやったと云うこと、ロータリーはここまでやらなければならぬのかと思ひ、私はとてもついていけないと思ひました。娘さんは今は元気になれましたが、この様なことがあって現在のクラブの姿になったと思ひます。その当時も立派な方々がおりましたが、鈴木初代会長でなければやれなかったのではないと思ひます。これ丈は皆さんに知っておいてもらいたいと思ひます。これこそ本当のロータリアンだと思ひます。先生は余りくどいたこともありませんが、私は一番近くにいたもので分かっておりました。今奥さんに言いますとこぼしますが、出来ない事だと思ひます。これ丈は会員の皆様に知ってもらいたいと思ひます。

小滝： 最初のいきさつは、鈴木先生が夜遅く父と店で逢っておると云うことは茶の間から見えていて知っておりましたが、果して何の話であるか知りませんでした。後で父からロータリークラブが出来るといふので勧誘を受けたのだが、お前が退入って勉強させてもらった方がよいから退入することにしたからと云われました。

今思い出しますと、農民センターで自己

紹介させられたのが、皆さんの前で口をきいた最初だと思います。



思い出と云いますと、最初に会報委員を仰せつかりまして、アサヒ商会の二階で川上さん、郡司さんと遅くまで原稿書きしたのが最初の仕事でしたが、会報が何であるか、何を書くのかも分かりませんで、辞書を手に原稿書きをしたことは忘れられません。

鈴木(基)： 当時会報は郡司さんに大変お世話になりました。年会費五万円ですし会員も少なく、会報の予算は一文もとれなかった、タイプも、紙も、印刷も全部郡司さんの会社でやっていただきました。後で余裕が出来たらお払いするからとの事でしたが、いまだに一文も払っておりません。(笑)、記念会報もそうです。

伊藤： その記念会報の最初に鈴木先生

がこんな事を書いておられますので読みます「この記念会報は本クラブ発足の感激の記録であります。この感激を後世に伝うると共に、改めてこれを読むことにより、その感激を新にし、自覚を促し、ロータリーの理想に向って前進することを期待するものです。又後日本クラブに入会してくる会員のロータリー情報としての価値と、その雰囲気の一部なりとも味わっていただき、一日として停滞することのないロータリーの理解に役だたしていただきたい」とあります。その当時すでにこの様な考えをもっておられたことに私は驚きました。



三森： その当時72才で最年長でした。現在83才です。例会には真面目に出まして遅刻も早退もしたことはありません。

鈴木(基)： まだまだお元気ですから、いつまでも会員でいてくれる事が、皆様の

手本にもなり、鏡にもなると思います。

手塚： ロータリーは立派な人達の集りだと云う事は知っておりまして、入会する事は名譽な事だと思いましたが。入会してみますとそこには一つの和があり、それにより結ばれておると思います。



福本： 私の入会につきましては、教会は貧しい人の為にあるのだと云うことで、最初は教団の方で入会を否決されましたが鈴木先生には以前に園医とPTA会長をお願いしており、お世話になった方の為にと云う事で次の委員会で入会を認められました。教団関係者は二千五～六百人おりますが、誰もロータリークラブに入会しておりません。現在は私とパーベリーさんだけです。

大塩： 入会するまでロータリークラブは全然知りませんでした。西那須野へ来ま

して十年目の時で、先輩は沢山おりますのに、この若僧を何是引っぱり出すのかと思いました。私の義兄が愛知県の旭におりますので話をしましたら、遣入っておれば分かるし、クラブも段々大きくなるだろうから遣入る事は悪い事ではないから入会したらよいだろう。どこの地域でも医者や知識人と見られておるし、クラブに入会しておるから、勧誘されたのなら幸いだから入会した方が良いとのアドバイスを受けました。

気楽に皆さんとおつきあい出来る事は良いことだし、横の繋がりがもてることが何よりです。最初、出席委員長でロータリーでは出席が大事で、それから親交が出来るのだと云う事を知りました。



君島： 入会是一日も早い方が良いと鈴木先生は云われて入会しました。入会時は



温泉組合の副会長でしたし、遠距離で出席を続ける事が可能かどうかと思いました。組合長は町長で前に宇都宮クラブに所属しておりましたので、会議などは便宜を計ってくれますので、今も続けていられます。

佐藤： 最初に考えましたのはやはり出席でした。生活のリズムの中に入れてしまいますと良いのですが、リズムに入れるまでが苦勞でした。

ロータリークラブのあることは知っていましたが、職業分類がうるさい事は知りませんでした。三年位たちましてから活を入れられ、勉強を始めたのは事実です。



小池： 会長となって最初の例会は、議会の視察で仙台近郊へ出張しており、宿泊していた国民宿舎を朝早く40分位歩きました

て仙台に出て、急行でやっと間にあった記憶があります。

も一つ私は年度途中で梨本さんが転勤で急に幹事をやる事になり、前任者との引き継ぎが充分でなかったのが大部分鈴木先生におまかせしてしまいました。それで今度は自分が会長になる時、幹事を最初に決めなければなりませんので、早速小滝さんを訪ねましたら、彼は渋っておりましたが、お父さんが、「若僧で遣入ってみなさんに迷惑をかけているのだから、私がやらせませうから」と云うことで決めていただきました。

又五周年を皆様のアドバイスと幹事の活躍でやらせていただきました。その当時は夢我夢中でした。

福本： 国際交流では最初バイセリアへ高校生22名と指導者3名とで参った時代と、今度の合唱団訪比に百余名が参ると云う事を較べてみますと、このクラブは大変成長したと思います。鈴木先生の情熱から始まった事業についていけなかった方が去っていったと思います。これから後継者の課題があるかと思ひます。誰が機関車になってこのクラブを引っばつて行くかですね。

## —— 尊い個人の奉仕 ——

鈴木(基)： ロータリーでは個人の奉仕が第一だと云われていて、このクラブでそれが最初にはっきり、他クラブからも、ガバナーからも認められたのは、鈴木伊勢松さんの奉仕です。ローザンヌ国際大会出席の途次、パリで同行の渡辺彌八会員が発病し、大会出席を断念し、彼を看病し乍ら帰国したことです。最終的には不幸な結果にはなりましたが、そのロータリアンとしての精神は賞賛に値します。滝沢ガバナーが存命中は、どこのクラブに参りましても卓話としてとりあげておりました。

亦、今度は郡司さんがラオスの難民ケオ・ケト君を一年間お世話をし、西那須野中学を無事に卒業させて就職させた、これも並大抵の事では出来るものではありません。

先日の十周年記念式典の坂本バストガバナーの祝辞の中に「こう云う人を育てるのがロータリークラブなのですよ」と云う事を申されておりましたが、私はそうだと思うのです。この様な会員がクラブから一人でも二人でも出てくると云う事がクラブを結成している意義があるのだと思います。これから長い年月には色々なことがあると思います。お二方を前に置いてですが、これから皆で見習はなければならないのではないかと思います。

本当に蔭の奉仕で、表に華々しく出る奉仕ではないですけど、その様な気持を一人一人が持つと云う事がロータリークラブを結成している基本ではないかと思います。

## —— 今後のクラブの奉仕は ——

佐藤： 私が入会した時にバイセリアから四十数名が来訪されました。それが印象に残った最初の奉仕活動でした。あとで意義ある業績賞の基になったと思います。今鈴木先生が個人の奉仕の事を申されましたが、クラブとしての奉仕で私の感激した一

駒です。

三森： その翌年バイセリアを訪問しました。突然の訪問でしたが二十数名集まって、パーティーを開いてくれました。

鈴木(伊)： ロータリークラブは個人個人が勉強して奉仕をする教育の場だと云う

ことですが、それは基本的には良いと思いますが、ロータリークラブは何をしているのか、一般から余り知られていない。外部に広報することは恥ずかしいことでもない、世の中も段々変化しておりますから、ロータリーを知っていただく為にも広報活動を活発にさせていただく必要があると思います。

君島： いかなる奉仕をするにしても、資金面に問題があると思います。

郡司： 若者にロータリーを知らせる、若者からみても魅力あるものでなければならぬ。クラブの一年交換学生の時も大変若者に魅力があった。これが必要なのではないか。

鈴木(伊)： 夏季交換学生としてバイセリアに行った子供が、たまたまあちらの医者之家にホームステイをして、その環境の影響で医の道を志して、二浪して歯大に行き、その子ももう卒業で、今でも大変感謝されております。これも大変な成果だったと思います。

小滝： 高度のレベルの奉仕もあります。地域に対する奉仕、会員全員が参加出来るプログラムがあれば、も少しロータリーの広報にもなるのではないかと。

佐藤： 地元に着した奉仕活動を考えるべきだと思います。

福本： 職業奉仕が原点ではないかと思えます。他の奉仕団体とは明確にすべきだと思います。

伊藤： 国際奉仕も地域への奉仕も大切ですが、職業の話をしたと云う意見もあり、これも大切だと思います。

小滝： 今迄の前進的な奉仕も必要ですが、内容を余り知らない方がおる。これでは駄目で全員参加のプログラムを組んではと思います。

鈴木(伊)： 急速に会員が増えた事で、無関心者も増えた、これを防ぐには伊辺会合が良いのではないかと。

佐藤： 会長経験者はそれは良く分かるのですが、金がかかるので頻繁には出来ない。これは申し送りの時、予算化する様に引き継ぐべきだと思います。

大塩： 新会員にとって自由な発言の場がない、発言のチャンスを作ってやる事も必要ではないかと。

佐藤： 責任ある立場にたてる事が必要です。

## —— ガバナーノミニー誕生 ——

鈴木(伊)： 1983～84年度のガバナーをクラブから出すことになっておりますが、ガバナーを引き受けたら金がいくらかかるのだろうかと言う不安もあるかと思えます。

その不安も「クラブから多額の出費をしなくても出来るのだ、皆が協力してくれば出来るのだ」と言う事を浸透させないとなりません。

福本： ガバナーノミニーの意向もありましょう、それを尊重して、お金の事は現時点では問題にすべきではないと思えます。

ガバナーは年間百日或いはそれ以上の時間をロータリーの為に行動で或いは思索で費し、自分の職業までもある程度犠牲にするのだから、クラブの会員は年収の一日分を奉仕していただく様にお話出来たら良いと思えます。教会では月収の割を信者は献金することになっております。そして精神的にも、行動面でもガバナーをもちたててゆく様にすべきだと思います。

鈴木(基)： 先日黒羽クラブの卓話を依頼されました時に最後に申し上げたのですが、「私がガバナーノミニーを引き受けた一つの理由は、今迄十年位のクラブからはガバナーは出ていない。西那須野は小さな

町のクラブです。どんな小さな町でも、このクラブでも出来るのだと云う事を証明してみたいからです。適任者がおればどここのクラブでも出来るのだ、西那須野が出来たのだから、我々も出来るのだと云う様に各クラブでなっていたきたいからです。それにはお金が余りかかったのでは出来ません。それを考えて私は行動するつもりです」と話してきました。

最初の会務報告書の巻頭にウエルカムガバナーと云う拙い詩を載せて、当時の滝沢ガバナーをお迎えしました。その後半部分は、今でも私は同じ心情を抱いております。

伊藤： その一節を読みましょうか。

「……………」

ロータリーは社交クラブでも  
施しをするのでも、外交だけでもない

善意の人々の集りだから  
気軽に楽しく 話しあおうよ

お話 それは そんな堅苦しいものではない

ロータリーとは？

ロータリーの活動とは？

もつれた糸を解きほぐすように説き明かされ、痒いところへ

手の届くように

奉仕の精神 これがロータリー精神

高遠なロータリー 哲学の華ひらく

そして 今日から」

大塩： 本日は色々な過去の話、苦勞の  
話、発展的なご意見を出していただき有難

うございました。

鈴木ガバナーを支える意見も皆さん披瀝  
された訳です。会員全体にも段々伝えて立  
派なガバナーの仕事をやっていただきたい  
と思います。どうも有難うございました。





## 第七章 ガバナーノミニー(1983—84)

### 誕生

— 鈴木基一会員指名さる —

# 1981~82R. I. 255地区年次 大会に於けるガバナーノミニ－挨拶

1983~84ガバナーノミニ－ 鈴木 基 一

於：佐野文化会館大ホール

1982年4月24日

只今御紹介いただきました西那須野クラブの鈴木でございます。

私は去る3月1日に地区指名委員会より、1983~84年度のガバナーノミニ－の指名を受けました。

ガバナーの仕事は大事な仕事でありますことは皆様もご承知のことでございます。その大事な仕事を私のごとき浅学未熟な者にお預け下さいます皆様の寛大さに恐縮もし、亦頭の下る思いが致します。と同時に、日のたつにつれまして、果して勤まるだろうか、大変心もとない次第でございます。

栃木県の県北クラブからはガバナーが選任された事はございませんので、選任してはどの機運が最進あるやに聞き及んでおりましたが、そのお鉢が私のところに廻ってくるなど夢想だにしておりませんでしたので、指名委員会からお話のありました時には大変驚くと共に迷いました。

皆さんも御存知かと思いますが、西那須



野クラブの区域限界は西那須野町と塩原町で人口約四万の小さな町で、この様な地域からガバナーが選任された前例は当地区ではございません。近隣には先輩クラブもございます。ロータリー拡大の現況を考えますと、各町村にまでクラブが拡大されております。何れはこの様な小さな町のクラブでも、亦歴史の左程長くないクラブでもお引受けしなければならぬ時が参ると思ひその試金石にお引受け致しました。

私が大変お世話になりました今は亡き滝沢バストガバナーが、ある先輩バストガバナーの言葉として「ロータリアンたる者、



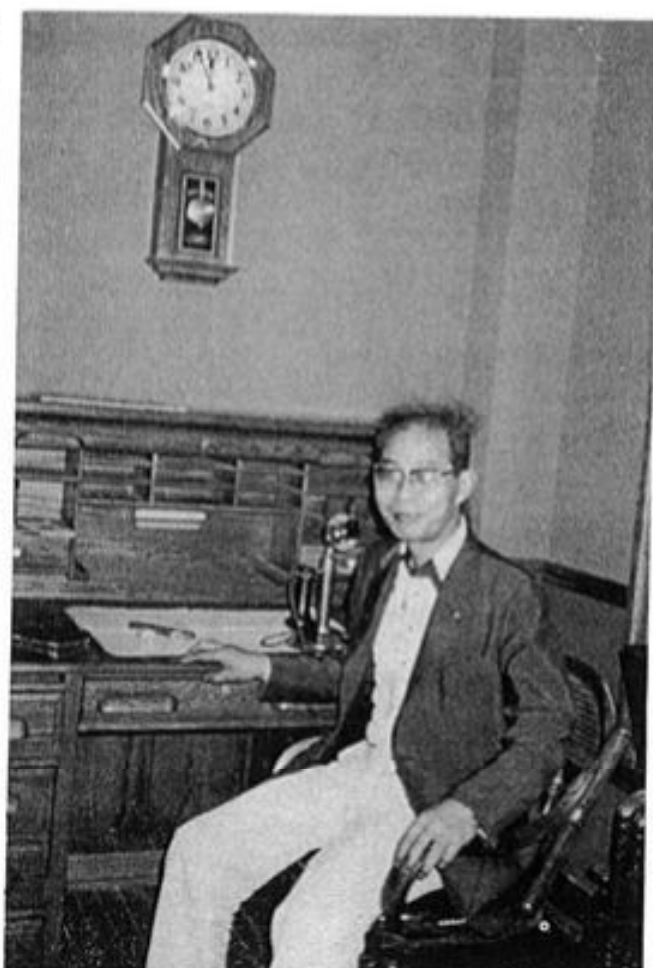
丈夫な胃袋と二本の脚があればガバナーは勤まるんだ」と云うことを述懐しておられました。その点私はまあ健康にも恵まれておりますので意を強うしております。

お引受けしました以上は出来る丈努力を致しまして、何とか地区の皆様方に御奉仕を申し上げたいと思っております。そしてやがて地区の皆様から少しは感謝され、自らも満足を少しでも感ずる期間に致したいと念じております。

私のこれからの生活はロータリー優先に暮して参りますが、それでも一人の人間の力、能力は小さなものでしかございません。ガバナーはじめ諸先輩のご鞭撻ご支援を切にお願いするものでございます。あと一年

余ございますのでせいぜい勉強もし、皆様と共に「奉仕の理想」に一步でも近づく様に努力をしたいと存じます。

簡単ではございますが光栄あるご指名に対すのご挨拶と致します。



シカゴのポール・ハリスの執務室にて



## ROTARY INTERNATIONAL

*Service Above Self - He Profits Most Who Serves Best*

1600 RIDGE AVENUE • EVANSTON, ILLINOIS 60201, U.S.A.

tel. 312/328-0100 • Cable: Interrotary • telex 724-463

Via air mail

16 July 1982

Mr. Motoichi Suzuki  
Governor Nominee, 1983-84  
District 255, R.I.

Dear Governor Nominee Suzuki:

Congratulations on your selection as district governor for 1983-84.

My associate, Tadashi Nukuto, supervises the section serving district governors and clubs in your area. You will find him to be a good source of information and counsel about all aspects of your work as district governor. Don't hesitate to consult him. He will soon be providing information and materials that will assist you in preparing for your year. By means of this letter, I also introduce Paul Bernholdt, manager of the Asia and Pacific Department.

In about 11 months your year of service as district governor will begin. It will be a year of many demands, but the great satisfactions will continue on for many years to come. Thank you for accepting this leadership role. We will give you full support.

Best wishes for every success during your year!

Sincerely,

A handwritten signature in black ink, appearing to read "Herbert A. Pigman".

Herbert A. Pigman  
General Secretary

## 第八章 創立十周年記念

### 西那須野少年少女合唱団訪比親善演奏 並びに日比児童交歓事業

#### R. I. 会長の「世界理解と平和賞」 受賞事業

- (1) 演奏旅行スナップ
- (2) 事業の大要及び目的
- (3) 演奏日程表
- (4) 同行ロータリアン及び保護者名簿
- (5) 合唱団員名簿
- (6) ホームステイ編成表
- (7) プログラム
- (8) ジェス・デ・ラ・フェンテ パラニアック R C 会長歓迎の辞
- (9) 大塩直文会長挨拶
- (10) ウィルフレッド・ラパエン パラニアック R C 直前会長挨拶
- (11) R I 会長の「世界理解と平和賞」受賞通知
- (12) 訪比に至る背景及び報告



# 下堅新聞

## 少年少女合唱団が結団式

### 26日に訪比演奏へ

西部須野ロ  
ータリーク 結成10周年を記念

結成10周年を記念して、西部須野ロータリークは、少年少女合唱団を結成し、26日に訪比演奏へ出発する。この合唱団は、結成10周年を記念して、西部須野ロータリークが主催する。合唱団のメンバーは、西部須野ロータリークの子供たちで、結成10周年を記念して、西部須野ロータリークが主催する。合唱団のメンバーは、西部須野ロータリークの子供たちで、結成10周年を記念して、西部須野ロータリークが主催する。

# 毎日新聞



少年少女合唱団の結成式が行われ、合唱団員が記念撮影を行った。合唱団員は、西部須野ロータリークの子供たちで、結成10周年を記念して、西部須野ロータリークが主催する。合唱団のメンバーは、西部須野ロータリークの子供たちで、結成10周年を記念して、西部須野ロータリークが主催する。

# を交歓の歌が多い実り

## 比国へ親善訪問

春休み利用「少年少女合唱団」

西部須野



少年少女合唱団の結成式が行われ、合唱団員が記念撮影を行った。

少年少女合唱団の結成式が行われ、合唱団員が記念撮影を行った。合唱団員は、西部須野ロータリークの子供たちで、結成10周年を記念して、西部須野ロータリークが主催する。合唱団のメンバーは、西部須野ロータリークの子供たちで、結成10周年を記念して、西部須野ロータリークが主催する。

1982年(昭和57年)3月8日 月曜日

(日刊)

# 朝日新聞

朝日新聞の発行所と支店に関する情報が記載されている。発行所は東京都千代田区千代田、支店は全国各地に設置されている。



BULLETIN TODAY, SAT., MAR. 27, 1982

## Japan youth choir here

The Niisanasuo Youth Choir, composed of children of Rotarians of Japan, will be featured in special performances with Leah Salonga at 7 p.m. tonight and tomorrow at the Paraisque Municipal amphitheater and the PhilAmLife auditorium, respectively.

A joint project of the Rotary clubs of Paraisque and Niisanasuo to underscore the Rotary International's theme of "World Understanding Through Rotary," the proceeds of the show will be donated to the cleft lip and palate project of the Paraisque group.

♪♪♪ 訪比演奏旅行スナップ ♪♪♪



マニラ空港で両クラブ会長の握手



パラニアック市野外音楽堂の演奏  
交歓会



ホセ・リサール公園での一行



フィラムライフ講堂の公式演奏会



マニラ空港到着



パラニアック市長へ日本人形贈呈



マニラ国際空港到着の一行



マニラフィラムライフオーデトリウムの演奏会場にて



デラフェンテバラニアック会長の歓迎の挨拶



城田合唱団長へ記念品贈呈



デラフェンテ会長へ記念品贈呈



W. C. S. プロジェクト1504  
三つ口児童と演奏会場での交歓



同行ロータリアン  
於 リサール公園

## 西那須野少年少女合唱団訪比親善演奏 並びに日比児童交歓事業の大要及び目的：

西那須野ロータリークラブの提唱により、四年前に創設された「西那須野少年少女合唱団」を西那須野ロータリークラブ創立十周年記念事業として、フィリッピン382地区の姉妹クラブ、パラニアックロータリークラブの協力を得てマニラ地区に派遣し、両国青少年を交流せしめ、両国間の国際理解と親善を深めることを目的とするものである。

今回は合唱団々員63名を西那須野クラブ会員18名、指導者保護者25名が同行引率し、総員106名で親善訪問し、3月27日にパラニアック市庁舎野外音楽堂に於て、市長主催の演奏交歓会に出席、その夜は団員はパラニアックロータリークラブ会員宅にホームステイをし、翌3月28日にはマニラ市フィラムライフ講堂に於て、公式演奏会を開催し多大の感銘を与え、成功裡に本事業を終了致しました。当クラブがパラニアックロータリークラブの提唱した、WCSのプロジェクトに協力したことがきっかけとなり、本事業にまで発展したこともあり、当日は

三つ口の子供及び家族も会場に招待されており、善意の華が開いた感がありました。

本事業の総費用は約1200万円であり、その中クラブ及び会員が負担した金額は約800余万円であり、受け入れしたパラニアックロータリークラブは現地演奏会場、交歓会場の設営、運営を分担し、団員の民泊を実施し、本事業に協力した。

以上が本事業の大要であり、これが成功裡に無事終了した事は、マッキャフリーR I会長の「ロータリーを通じて世界理解を平和を」のテーマを実践したことにもなり、両国間の国際理解にも役立ち、両国参加少年少女に多大の感銘と永久に忘れ得ない平和への願いが心に刻まれ、非常に有意義なプランでありプロジェクトであったと確信するものであります。

この成果をマッキャフリーR I会長は高く評価し、1982年6月7日ダラス国際大会の席上、「世界理解と平和賞」を当クラブに授与するとの通知に接し、大変名誉に思うものであります。

# 日 程 表

## 第1日目

月日(曜)	都市名	発着時刻 現地時間	交通機関	スケジュール
3月26日 (金)	成田着	14:15	フィリッピン 航空(P R) 431便	成田空港より、フィリッピン航空にてマニラへ (A-300 エアバス)
	マニラ着	17:55		

### 宿泊

PHILIPPINE PLAZA (フィリッピン プラザ)  
Roxas Blvd. Metro Manila  
TEL 8320701

## 第2日目

月日(曜)	都市名	発着時刻 現地時間	交通機関	スケジュール
3月27日 (土)	マニラ	09:00	専用車	朝食後、ホテルを出発 二重式火山で有名なタガイタイ観光へ出発
	タガイタイ	15:00	専用車	
	マニラ	18:00		その後、ホテルへ戻ります。 パラニアックにて演奏会、市庁舎野外音楽堂 夕食(パラニアック市長招待)
	マニラ	20:00		夕食後、合唱団員は現地家庭にてホームステイ、ロ ーターメンバー・父兄の方はホテルへ戻ります。

### 宿泊

○PHILIPPINE PLAZA (フィリッピン プラザ)  
同 上  
○ホームステイ

## 第3日目

月日(曜)	都市名	発着時刻 現地時間	交通機関	スケジュール
3月28日 (日)	マニラ	09:00		ホテルを出発、途中、合唱団員と合流市内観光へ (リサール公園、サンチャゴ要塞、米軍人基地、 中国人基地、フィリッピン文化村 等)
		14:00		その後、ホテルへ戻ります。
		16:00		夕食(パラニアックR.C.招待)
		18:00		公式演奏会(フィラムライフ講堂)
		20:00		公式演奏会後、ホテルへ戻ります。

### 宿泊

PHILIPPINE PLAZA (フィリッピン プラザ)  
Roxas Blvd. Metro Manila  
TEL 8320701

## 第4日目

月日(曜)	都市名	発着時刻 現地時間	交通機関	スケジュール
3月29日	マニラ着	14:00	フィリッピン 航空(P R) 432便	フィリッピン航空にて、帰国の途へ (A-300 エアバス)
	成田着	19:00		昼、成田空港到着



# 同行ロータリーアン及び保護者名簿

## 西那須野少年少女合唱団フィリッピン演奏会参加名簿

- |                                       |  |
|---------------------------------------|--|
| 1. INOUE Masao Mr.<br>(井上正夫)          | 23. TSUCHIYA Hideo Mr.<br>(土屋日出男)          |
| 2. KIMIJIMA Kyuzo Mr.<br>(君島久造)       | 24. KIMIJIMA Hiroshi Mr.<br>(君島洋)          |
| 3. TAKASE Senji Mr.<br>(高瀬千治)         | 25. HASEGAWA Sachiko Mrs.<br>(長谷川幸子)       |
| 4. SUZUKI Michio Mr.<br>(鈴木道雄)        | 26. KIRYU Michi Mrs.<br>(桐生美智)             |
| 5. TSUCHIYAMA Kozo Mr.<br>(土山幸三)      | 27. MIZUNUMA Ayako Mrs.<br>(水沼あや子)         |
| 6. SASANUMA Yukio Mr.<br>(笹沼幸雄)       | 28. FUSHIMI Mieko Mrs.<br>(伏見美恵子)          |
| 7. ISHII Shizuo Mr.<br>(石井志津夫)        | 29. SUDO Haruo Mr.<br>(須藤春夫)               |
| 8. ISHII Nagako Mrs.<br>(石井長子)        | 30. SUDO Katsuko Mrs.<br>(須藤佳子)            |
| 9. GOTO Yasuko Mrs.<br>(後藤靖子)         | 31. NAKAMURA Yoshiko Mrs.<br>(中村芳子)        |
| 10. SEKIGUCHI Toshiko Mrs.<br>(関口トシ子) | 32. SATO Kaoruko Mrs.<br>(佐藤薫子)            |
| 11. ASHIZAWA Shizuko Mrs.<br>(芦沢静子)   | 33. GUNJI Masayoshi Mr.<br>(郡司昌佳)          |
| 12. SAKAMAKI Hiroko Mrs.<br>(坂巻裕子)    | 34. SUZUKI Isematsu Mr.<br>(鈴木伊勢松)         |
| 13. MORIYA Nobuyo Mrs.<br>(森谷信代)      | 35. OSHIO Naobumi Mr.<br>(大塩直文)            |
| 14. FUJITA Hatsue Mrs.<br>(藤田初江)      | 36. OZAWA Tsuneaki Mr.<br>(小沢恒明)           |
| 15. KOBARI Yasuko Mrs.<br>(小針泰子)      | 37. KIMISHIMA Rokuro Mr.<br>(君島六郎)         |
| 16. WATANABE Ayako Mrs.<br>(渡辺アヤ子)    | 38. SUZUKI Motoichi Mr.<br>(鈴木基一)          |
| 17. KOIDE Yasuko Mrs.<br>(小出ヤス子)      | 39. KOTAKI Nobumitsu Mr.<br>(小滝信光)         |
| 18. AOTTA Kimiko Mrs.<br>(堀田紀美子)      | 40. SHIROTA Masao Mr.<br>(城田正男)            |
| 19. ASABA Akira Mr.<br>(浅羽章)          | 41. MARIO C. BARBERI Mr.<br>(マリオ C. バーベリー) |
| 20. MIYAZAWA Yoshitsugu Mr.<br>(宮沢義次) | 42. SATO Etsuro Mr.<br>(佐藤悦郎)              |
| 21. HACHISUKA Sumiko Mrs.<br>(蜂須賀スミ子) | 43. YAMAGUCHI Masaharu Mr.<br>(山口正春)       |
| 22. HARADA Yoshi Mrs.<br>(原田よし)       |  |

## 団 員 名 簿

No.	参加者氏名	生年月日
1	須藤真琴	昭42. 4. 2
2	石井奈津子	◇43. 11. 23
3	郡司 步	◇44. 3. 21
4	谷中克江	◇43. 11. 4
5	青木由希子	◇44. 1. 25
6	梅田惠子	◇43. 12. 19
7	栗原いずみ	◇44. 1. 20
8	小針ゆう子	◇44. 1. 7
9	君島ひろみ	◇43. 12. 18
10	檜木重美	◇44. 1. 9
11	深谷恭子	◇44. 4. 12
12	田口久美子	◇44. 11. 26
13	宮沢まゆみ	◇45. 1. 25
14	坂巻亜彌子	◇44. 12. 12
15	熊谷昌美	◇44. 6. 12
16	内藤幸子	◇45. 2. 27
17	堀田広満	◇45. 1. 22
18	森脇惠美	◇44. 9. 8
19	二階堂由美	◇44. 9. 19
20	田口昌子	◇44. 4. 30
21	後藤直美	◇44. 4. 22
22	斉藤陽子	◇44. 9. 30
23	須藤真笛	◇44. 11. 6
24	印南美由紀	◇45. 1. 25
25	土屋展子	◇44. 5. 1
26	蜂須賀博美	◇45. 7. 18
27	長谷川典子	◇45. 4. 25
28	石井和美	◇45. 11. 27
29	浅羽千恵	◇45. 7. 1
30	室井由紀恵	◇46. 3. 18
31	柴 圭二	◇44. 10. 13
32	小出純子	◇45. 4. 9

No.	参加者氏名	生年月日
33	鶴尾英子	昭44. 8. 11
34	平出かずき	◇43. 12. 28
35	神長恵子	◇43. 9. 12
36	谷中徳子	◇46. 1. 15
37	須賀千穂佳	◇45. 9. 18
38	佐藤幸恵	◇45. 10. 22
39	村上有美子	◇44. 12. 10
40	江頭利江子	◇44. 7. 18
41	大野祐子	◇44. 5. 29
42	君島悦子	◇45. 5. 4
43	藤田治子	◇45. 7. 19
44	芦沢哲也	◇46. 2. 27
45	鈴木美子	◇45. 11. 11
46	梅村博子	◇46. 3. 15
47	水沼玲子	◇47. 1. 11
48	佐藤祐里	◇46. 3. 13
49	鈴木美奈子	◇45. 9. 16
50	藤田美彌子	◇46. 3. 30
51	森谷麗子	◇46. 12. 16
52	郡司 泉	◇46. 5. 15
53	堀田浩信	◇45. 1. 22
54	伏見貴子	◇46. 7. 28
55	武藤史子	◇46. 7. 12
56	山名郁子	◇46. 5. 28
57	渡辺明子	◇45. 11. 20
58	関口まゆみ	◇47. 1. 8
59	栗原麻記	◇46. 11. 16
60	梅津あかね	◇46. 7. 27
61	徳重典子	◇46. 4. 24
62	青木美和	◇46. 11. 18
63	加藤浩美	◇44. 11. 10

HOMESTAY ★ Rotary Club of Parañaque

March 26 - 29, 1982

班	N A N E 団 員 名			ホームステイ愛入者名
1	SAKAMAKI Ayako Miss 坂 巻 亜 弥 子	INNANI Miyuki Miss 印 南 美 由 紀	MUROI Yuki Miss 室 井 由 紀 恵	MR. JOE APOLLO Tel. 828-3769 4368 Rosemallow Road, Sun Valley,
2	KURIHARA Izumi Miss 栗 原 い ず み	KUMAGAI Saori Miss 熊 谷 沙 織	UNENURA Hiroko Miss 梅 村 博 子	MR. ADRIAN ATTISADO Tel. 828-0747 #5 Berlin St., Merville Park n--
3	GUNJI Ayumi Miss 郡 司 歩	NAITO Sachiko Miss 内 藤 幸 子	YANAKA Noriko Miss 谷 中 徳 子	MR. NICK BALINGHAY Tel. 828-2050 1066 Quirino Ave., Cor. Dandan St La Morita, Parañaque, Metro-Mnl.
4	NARAKI Shigemi Miss 檜 木 重 美	MURAKAMI Yumiko Miss 村 上 有 美 子	HACHIBUKA Hiromi Miss 蜂 須 賀 博 美	MR. MANNY CABRERA...Tel. Nong Lot 30 BLK. 13, Gloria Diaz St. B. F. Homes, Parañaque-MM
5	KOBARI Yoko Miss 小 針 ゆ う 子	NIKAIDO Yumi Miss 二 階 堂 由 美	HASEGAWA Noriko Miss 長 谷 川 典 子	MR. TONY CALSO ..Tel. 828-8221 2272 Quijo St., United Parañaque Subdivision I, Parañaque-MM
6	TSURUO Hideko Miss 鶴 尾 英 子	TAGUCHI Kumiko Miss 田 口 久 美 子	ISHII Kazumi Miss 石 井 和 美	MR. HENRY CHEUNG...Tel. 828-4361 3990 Magnolis St., Sun Valley Parañaque-MM
7	ONEDA Keiko Miss 梅 田 恵 子	MORIMAKI Eri Miss 森 脇 恵 美	FUSHIMI Takako Miss 伏 見 貴 子	MR. EMIL DUMATON..Tel. 828-0932 102 P. Evangelist Street B. F. Homes, Parañaque-MM
8	KIMIJIMA Hiromi Miss 君 島 ひ ろ み	EGASHIRA Rieko Miss 江 頭 利 江 子	NORIYA Reiko Miss 森 谷 麗 子	MR. HERMAN GAMBOA..Tel. 801-1618 19 Soriano Street, B.F. HOMES Parañaque, Metro-Manila
9	KAMINAGA Keiko Miss 神 長 恵 子	KOIDE Junko Miss 小 出 純 子	UMEZU Akane Miss 梅 津 あ か ね	MR. MABS JUAN...Tel. 842-3228 3-5 Acacia Lane, New Alabang Village, Muntinlupa, Metro-MNL
10	AOKI Yukiko Miss 青 木 由 希 子	SUZUKI Yoshiko Miss 鈴 木 美 子	MUTO Yumiko Miss 武 藤 史 子	MR. FRED LABAYEN..Tel. 828-7625 3761 After Rome St., Sun Valley Parañaque-Metro Manila
11	YANAKA Tatsue Miss 谷 中 克 江	SUZUKI Minako Miss 鈴 木 美 奈 子	TOKUSHIGE Noriko Miss 徳 重 典 子	MR. PIT PAKKALIMAGAN..Tel. Nong 2531 Mangga St., United Parañaque Subdivision I, Parañaque-MM
12	ISHII Natsuko Miss 石 井 奈 津 子	KATO Hiromi Miss 加 藤 浩 美	WATANABE Akiko Miss 渡 辺 明 子	MR. APIN FANTALICH Tel. 828-9011 / 827-3215 #66 Ecology Village, Makati-MM
13	FUKAYA Iyoko Miss 深 谷 恭 子	SAITO Yoko Miss 齋 藤 陽 子	KURIHARA Maki Miss 栗 原 麻 記	MR. JO. RAMOS...Tel. 827-3424 39 Sierra Leon Street Better Living, Parañaque-MM
14	GOTO Naomi Miss 後 藤 直 美	SATO Yuri Miss 佐 藤 祐 里	AOKI Miwa Miss 青 木 未 和	MR. CESAR YATCO...Tel. 86-62-35 123 Anapola St., Bel-Air Makati, Metro-Manila
15	SUDO Naofu Miss 須 藤 真 笛	FUJITA Miyako Miss 藤 田 美 弥 子	SEKIGUCHI Mayumi Miss 関 口 ま ゆ み	Mr. Yatco will take care for home stay to other rotarian
16	MIYAZAMA Momomi Miss 宮 沢 ま ゆ み	FUJITA Haruko Miss 藤 田 治 子	GUNJI Izumi Miss 郡 司 泉	MR. JOE YULO...Tel. 828-3040 38 Main Ave., Merville Park Parañaque-Metro Manila
17	TSUCHIYA Nobuko Miss 土 屋 展 子	KIMIJIMA Etsuko Miss 君 島 悦 子	NIZUNUMA Reiko Miss 水 沼 玲 子	MR. TAKI SAKADA..Tel. 828-2194 2194 Narra St., United Parañaque Parañaque-Metro-Manila
18	OGO Yuko Miss 大 野 祐 子	SUGA Chihoko Miss 須 賀 千 穂 佳	YAMANA Ikuko Miss 山 名 郁 子	MR. LUIS PELICIANO Tel. (Ofc) 865061/873230 #14 Ceylon St., Better Living, Far
19	HIRAIDE Kazuki Miss 平 出 か ず き	SATO Yukie Miss 佐 藤 幸 恵		Mr. Pantallon will take care for them for home stay
20	TAGUCHI Masako Miss 田 口 晶 子	ASABA Chie Miss 浅 羽 千 恵		MR. Eanca lian will cake care for home stay
21	SUDO Makoto ME 須 藤 真 琴	ASHIZAWA Tetsuya Mr. 芦 沢 哲 也		***Mr. Labayen will take care for home stay to other rotarian.
22	SHIRA Keiji Mr. 柴 圭 二	HOTTA Hiromitsu Mr. 堀 田 広 満	HOTTA Katsunobu Mr. 堀 田 活 信	MR. JESS DE LA FUENTE..Tel. 774471 27 Worth St., St. Ignacio Village Quezon City

## ◆ プログラム ◆

司会 エミエル・ドウマトール

フィリッピン国歌・日本国歌

歓迎の辞……………パラニアックロータリークラブ会長……………ジェス・デ・ラ・フォンテ  
挨拶……………西那須野ロータリークラブ会長……………大 塩 直 文  
挨拶……………西那須野少年少女合唱団々長……………城 田 正 男



指揮 須藤 春 夫  
伴奏 佐藤 薫 子

### 第一部 日本の祭

「祭と子ども」……………岩 崎 三 郎 作曲

花 ま つ り  
祇 園 祭  
秋 ま つ り  
雪 の 祭

### 第二部 日本の歌曲

1. 花のまわりで……………大 津 三 郎 作曲
2. 赤い花 白い花……………中 村 ユ ミ 作曲
3. 小さな秋みつけた……………中 田 喜 直 作曲
4. 夕方のお母さん……………中 田 喜 直 作曲
5. レロン レロン シンタ……………フィリッピン 民謡
6. 田植うた……………フィリッピン 民謡

## 休 憩

### 第三部

1. 電子オルガンソロ……………コナ・ヤッコ
2. 独 唱……………パノラ・ガムボア
3. ギターソロ……………ロウイ・ラバエン
4. ピアノ デュエット……………佐藤 直美・栗原いずみ  
草 競 馬……………大野 祐子・江頭利江子  
お、スザンナ……………梅津あかね・郡司 歩
5. バイオリン ソロ……………須藤 真琴  
ホーム スイート ホーム……………須藤 真笛
6. ボーカルソロ……………中村 芳子  
中国地方の子守唄……………MAAL ALA MOKAYA

第四部

伏見 貴子・浅羽 千恵・佐藤 幸恵

1. かごめ かごめ

2. ぼんさん ぼんさん

3. 花いちもんめ

4. コマ・竹トンボ

5. 通りゃんせ

6. 八十八夜

ボーカルデュエット……………おぼろ月夜・ふるさと

日本舞踊……………さくら さくら

ピアノデュエット……………ホテルこい・からすかねもん

第五部

独 唱……………少女歌手……………リア・ソロンガ

第六部

合同並びに交歓演奏



閉会の辞……………パラニアックロータリークラブ直前会長……………フレッド・ラバエン

## ジェス.デ.ラ.フェンテ会長歓迎の辞

1982年3月28日 於：フィラムライフ公会堂

今晚わ!

来賓として西那須野から来られた大塩会長、鈴木地区ガバナーノミニ、城田次期会長、お客様、親愛なる活動的なロータリアン、ロータリーのご夫人方、友達の皆様へ。

西那須野とパラニアックとの関係は貧しい三つ口の障害をもつ子供に対する博愛的な関係から始まりました。そういうわけで、今晚は名誉あるお客様として彼等をご招待しました。(その子供達と親にスポットライト)

この博愛心の関係から始まり、そして今晚その関係は我々ロータリアンや家族の間だけでなく、両国間にも大きな絆の花が咲いたわけでございます。

西那須野ロータリークラブの創立十周年の記念に西那須野ロータリークラブはパラニアック市並びに我々の国に少年少女合唱団を連れて訪問して下さいました。この西那須野少年少女合唱団の訪問並びに昨夜のホストファミリーになったロータリー家族



の間に、両クラブ、そして両地域の上に堅い絆が出来ました。

この様な努力をされている西那須野ロータリークラブに対して、お礼の意を献げたいのでお立ち下さるようお願い致します。(西那須野ロータリアンにスポットライト)

かねてよりこの催しを可能にしたスポンサーや組織、大勢の方々、そしてロータリーの家族の方々にお礼を申し上げます。

この西那須野よりのメロデーが、フィリッピンの人々の心の中に永遠の平和と理解の善意のひびきとなって非常に深く鳴り響ることでしょう。

ようこそいらっしゃいました。マブハイ!

## 挨拶

西那須野ロータリークラブ会長 大塩直文

会場の皆さん今晚わ!

この立派な会場の壇上よりご参集の皆様  
に日本より参りました私達ロータリークラ  
ブ会員並びに西那須野少年少女合唱団を代  
表してご挨拶出来ますことは無上の光栄と  
するところであります。

今回はパラニアックロータリークラブ、  
デ、ラ、フォンテ会長はじめ、会員並びに  
ご夫人方に一方ならぬお世話様に相成り、  
有難うございました。

昨日はパラニアック市長さんをはじめ、市  
民の皆様とも心暖まる交流が出来、合唱団  
のメンバーも心ゆくまで、歌うことが出来  
ました。歌には国境はない、ということが  
実証され、子供達にとって生涯忘れること  
の出来ない思い出となる事と存じます。

更にホームステイはホストファミリーの  
善意に包まれて、言葉は充分通じなくても、  
心は通じておりました。これを機会に子供  
達が文通を通じて、長くお互いの交流が続  
くことを希望致します。又、日本へそのフ  
ァミリーをお迎え出来るチャンスを期待致  
します。

本日は最後の演奏会を開くにあたり、合



唱団の子供達は昨日にも増して力一杯に唄  
います。どうか遠い日本より来た情熱をく  
みとっていたゞき、比国と日本との国際親  
善に努力している事を高く評価して下さい。  
ロータリークラブ会員は「ロータリーを通  
じて、世界理解と平和を」のマッキヤーフ  
リーRI会長の希望にそうことが出来まし  
たことを喜んでおります。

最後にパラニアックロータリークラブの  
益々の発展と比国の皆様、ロータリークラ  
ブ会員、ご家族のご健康を祈りまして、ご  
挨拶と致します。有難うございました。

## 閉会の辞

パラニアックロータリークラブ直前会長 ウィルフレッド・ラバエン

この催を成功させる為にご尽力下さった寄付者、スポンサー、特別ゲストの方々にパラニアックロータリークラブを代表して、私から深い感謝とお礼の言葉を述べさせていただきます。

日本の我々の姉妹クラブである西那須野ロータリークラブ並びに少年少女合唱団が、我々の姉妹関係を育成強化する為に、時間を費し、我々の国へ親意の旅をし、美しくハンサムな若き大使達が「ロータリーを通じて世界理解と平和を」のテーマを分かち合うことを実行して下さいたことはまことに有難いことです。たゞ一つ残念なことは滞在日数が少なく、この可愛らしい子供をもっと良く知り合う時間が足りないということです。今後、お互いがもっとよく知り合う為にもっと長く滞在されることを希望

致します。

私は昨年、の会長時代にこの姉妹関係を始めたガバナーノミニーの鈴木先生に特にお礼を述べたいと思います。我々双方の姉妹関係が継続し、支持されていることを見ることは、何よりの心の宝と思います。

三つ口兎並びに今晚一緒に来ています子供の親に代って、我々の今日の社会で、人並の生活や美しいほゝえみを持つことが出来るようにして下さい、博愛的な援助をして下さった日本の西那須野ロータリークラブに感謝致します。

今晚ここにいらした方々皆さんが、この大いなる博愛的なパラニアックロータリークラブの「三つ口プロジェクト」を支持して下さいようお願い致します。

サンキュー、マブハイ、どうも有難う。



## R I 会長の『世界理解と平和賞』授与通知

敬愛する会長へ

スタンレー・マッキャフリー会長に代って貴クラブの少年少女合唱団旅行演奏が会長の世界理解と平和賞授与に選ばれた事を、お知らせ出来ますことを私は大変嬉しく思っております。

来る6月7日(月)テキサス州ダラス市大会に於て、貴クラブの代表者に賞を贈ることになっております。まことにおめでとうございます。この賞を受賞する為に貴クラブ会長又は次期会長或いは他の会員が大会に参加して下さい事が望ましいでしょう。それが不可能な場合は、貴クラブに代って貴地区の他クラブ会員が受けなくてはなり

ません。

私宛に貴クラブの代表者が、どなたになっているかを知らせることが大切です。代表者が決まり次第、至急お知らせ下さるようお願い致します。

代表者が大会に来られたら、ダラス大会センター内に設けられている連絡センター(又は受付センター)における私の所に来て下さい。そこで私からこの受賞について詳しく説明致します。近い内に貴クラブよりの手紙が参りますのを待っております。

繰返しておめでとうを申し上げます。

敬 具

1982年3月19日

## 訪比に至る背景及び報告、並びに R I 会長の『世界理解と平和賞』受賞

### 組み合わせ地区の指定：

当地区が1979～80年度より三ヶ年間の地区対地区の組み合わせ地区として、比国382地区がR I より指定された。

### WCSの援助：

組み合わせ地区の382地区パラニアックRCの提唱するWCSプロジェクトNo.1504「三つ口の子供の治療援助」を当時地区WCS委員長であった鈴木基一委員長の助言により選定、国際ロータリー75周年記念シカゴ国際大会の際、シカゴ紅花に於て、湯原PG、バレド382地区GE立会いのもとで第一回資金1000米ドルをパラニアッククラブに贈呈、向後5ヶ年間の援助を両クラブ間で確認し、交流の第一歩が踏み出された。

### パラニアッククラブとの姉妹クラブ締結：

1980年11月28日WCSの実情調査、第二回資金援助、及び両クラブの親善交流の為クラブ会員十余名が訪比、翌29日パラニアックRCの強い希望があり、マニラに於て、君島六郎会長とラバエンパラニアック会長間に於て姉妹クラブ締結書に署名、鈴木基一及びヤッコ両クラブ創立会長が副署し、両クラブの友好の絆が結ばれた。

その時点で少年少女合唱団の受け入れの

諾否を打診し、快諾を得たが、当クラブの意志は未確定であったので、後日両クラブ間にて検討することとした。

### 少年少女合唱団訪比報告：

当クラブ10周年記念事業として成功裡に実施完了し得た事を報告します。これはクラブ全体が一丸となってことに当った証左であります。

第一回の演奏会は27日夜パラニアック市の主催で、パラニアック市庁舎内の野外音楽堂に於て交歓演奏会の形式で日比両国の子供達が演奏を致しました。市立高校生の民族舞踊、唄、小学生のバンド演奏もあんなごやかな交歓がくりひろげられました。合唱団のフィリピン民謡の演奏には地元の方々から期せずして歌声がおこり大合唱となりました。市長は団員一人一人にねぎらいの言葉をかけられお土産を手渡して下され、夕食の接待をもしてくれました。

演奏会后団員は夫々ロータリアンの家庭へホームステイをしましたが、家族全員で迎えに来まして、わが子のように抱きかゝえるようにして家路に向ったのを間の当りにして、これで一つの大きな目的が果されたと感じました。

翌28日はパラニアックRCの主催の公式演奏会がマニラのフィラムライフ公会堂に於て盛大に開催されました。当日はパラニアックRC会員の子弟も出演し、交互に演奏を致しました。そして最後には両国の出演者の大合唱となりました。

モンティノーラガバナーノミニーも列席し、賛辞を呈しておりました。

**RI会長の「世界理解と平和賞」受賞：**

地区対地区、WCSの援助、姉妹クラブの締結の段階を年々一つづつ昇り、相互理

解の上に合唱団の訪比演奏が成果を収め得たのであります。

今年度RI会長のテーマ「ロータリーを通じて世界理解と平和を」に添ったプロジェクトで、この事業がRIの認めるところとなり、6月7日(月)ダラス国際大会の席上、マッキーフリーRI会長から直接賞を授与するとの通知が3月19日付でありました。まことに光栄に思うと共に、本事業のしめく、りが輝しいものになったことを喜びたいと存じます。



## 第九章 姉妹クラブ

パラニアッケロータリークラブ

### 382地区

— W. C. S. より姉妹クラブへ —

- (1) 姉妹クラブ締結
- (2) 姉妹クラブ締結書
- (3) 訪比スナップ

## パラニアックロータリークラブと姉妹クラブ締結

11月28日、30度を越す暑いマニラ空港に着きました。その数日前に西那須野を訪れましたなつかしい面々が空港に迎えて下され、そこで日程を打ち合わせました。

その夜偶然にも、フィリピン全国四地区240クラブ会長会議(直前会長、現会長、次期会長)がマニラから約一時間の郊外にあるリゾートアイランド、コブランジャで三日間の予定で開催され、当日は開会式及び前夜祭で、バレドガバナーより全員招待を受け出席致しました。

バレドガバナーはわざわざ出迎えて下され我々を温かく迎え入れて下さいました。6月にシカゴの紅花でご一緒致しました関係もあり一層親しみを覚えました。

会場のコブランジャは川に囲まれておる島で、その中にホテルもスポーツ施設も整っております。フェリーを利用しませんと会場に入ることは出来ませんので他から隔離され会議は他から邪魔されない利点がありますが、一度入場すれば缶詰になり、日本の大会の様に途中エスケープすることも出来ない所で、大変面白いと思いました。

クンブンティンPG(マカテー西クラブ)が我々両クラブを紹介し、その後君島会長と私を更に紹介して下さいました。

そして我々の席にカパラス国際ロータリー副会長、バレドガバナー、ヘチャノバ直前ガバナーが足を運ばれ、種々懇談を致しました。約四時間その会にりましたが、その間主にパラニアッククラブの方々が接待をして下され、組み合わせクラブのレガスピークラブの方々も加わり大変賑やかでした。

幼ない不幸な患者を心配する家族にやさしい言葉を与えるアチエンサ先生。

その夕食で子豚の腹にタマリンドの木の葉の詰め炭火で表面がバリバリするまで焼きあげたフィリピンで最も上等なご馳走とされておりますレチョンも試食しました。余興にはガバナー夫人が演出し、ビサヤ地方(フィリピン中部)のクラブ会員及びその夫人方のビサヤ地方の踊の披露がありまして、思いがけない楽しい一夜を過ごすことが出来ました。又バレドガバナーは我々に TAKE TIME TO SERVE のテーマとロータリーマークの入ったポロシャツを全員にプレゼントして下さいました。

翌日はWCS No. 1504の提唱クラブでありますパラニアッククラブの招待午餐会がマニラのジョセフィンと云うレストランで開かれ、和かな楽しい会でした。その席でW

C Sの第二年度分\$ 500を贈呈致しました。亦その席で先方より姉妹クラブ締結の強い希望が表明され、突然で予想もしておりませんでしたこと丈に面喰いしましたが、会長も同席しておりましたので相談の上署名を会長と私とで致して参りました事をご諒承下さい。

パラニアッククラブは1975年に創立され、現在会員は五十数名で、我々のクラブの規模と同じ位です。

昼食後、今回の訪比の第一の目的でありますWCS No. 1504の実情調査及び視察の為に彼等と同道パラニアックに向いました。パラニアックはマニラの中心地より15K位の所にあります。

同地のパラニアック教会の一室に、神父さんと今回のプロジェクト担当医師でありますアチェンサ先生及び6名の兎唇口蓋破裂児、それらの家族が待っておりました。

最初にパラニアッククラブのラバエン会長の挨拶があり、「ここにおける患者についてはアチェンサ先生が説明されるが、先生はフィリッピンにおける第一人者の女医で、このプロジェクトについては無料奉仕を申し出ておるとのこと、又お送りいたゞいておるお金の使途についてはクラブのボイゼアさんから説明させる」と申され、直ちにボイゼアさんの説明に入りました。

本年6月よりパラニアックの三つ口の患者の調査を政府機関及び隣組を通じて実施したところ16名いることが判明し、次に担当してくれる専門医を調査し、フィリッピン国内に36名、その中マニラ地区に4名しかおられないことが判明し、今日こゝに来ておるフィリッピン大学のアチェンサ先生が検査してくれることになり、も一人の補助医師も今日この会場におられるので紹介しますと、紹介がありました。

又今月から教会の前のパラニアック病院にその治療室を建設しましたが、これはマニラの病院まで通院することの負担の軽減の為に開設したとのことで、フィリッピン政府も国際児童年に合わせてこのプロジェクトを前面に出してきたとのことでした。

尚今迄このプロジェクトについて4クラブ1地区より援助があり、米国のニューヨークのミドルポートクラブより1470ペソ（米価200）日本の西那須野及黒羽両クラブより14906ペソ（米価2000）255地区より28297ペソ（米価3850）他の一クラブよりの合計で昨年度44673ペソの援助金が集まったが、このお金は別口座で銀行に預金をし、このプロジェクトにのみ使用する様にしてあるとのことでした。

将来はナースを置き、記録及び模型製作に人も備い家族及び病児の教育も実施した

いとのことでした。

次に質問に移りましたので、私から次の四項目について質問を致しました。

- (1) 病院建設の資金は何処から出たか。
- (2) このプロジェクトにフィリピンのロータリークラブから援助の申し込みがあったか。
- (3) 今迄何人治療したか、又最初に手術をする予定は。
- (4) このプロジェクトは何時迄続けるのか。

これ等に対する答えは、政府の病院のコーナーを一部無料借用して治療室を設置したが、将来は医療器具はこのプロジェクトで準備する。

フィリピンのクラブの援助額は約6000ペソ（米価800）であるが、他に薬及び栄養費をもっている。

患者は大変に栄養が悪く栄養補給をした上でないと手術は不可能で、現在それを実施しており、手術の時期は未決定とのこと。

最初このプロジェクトは6年位を考えておりますが、専門家と相談したところ、アフターケア、リハビリテーション等を考えると完全に治癒するには約12年位を要するとのことなので期間は決めかねておるとのこと。

次にアチェンサ医師の説明があり、先ず最初に「ここに来ておる日本の方々が貴方

々の治療の為にお金を援助して下さいっておる方々で有難いことですね」と家族に向けて話され、両親がこのプロジェクトを理解することが一番大切だと話され、又この子供達が他から正常に見え、正常に話せる様にとこのプロジェクトに励んでいるが、専門家と云っても技術的に未熟なところがあるので、その面でも先進国である日本の専門機関に留学するか見学の機会を得たいと希望を述べておりました。これについてはロータリー財団の奨学生に応募することを奨めて参りました。先方では大変良いことを教えていたゞいて有難いと感謝しておりました。

この女医さんの一生懸命な姿を間のあたりにしまして、どこからこの奉仕の姿や、ファイトが出てくるのだろうかと考えさせられました。この国は90%以上がカソリックの国ですので、宗教上からくるのかとも考えてみました。この様な真正面から取り組んでおる担当者がおることはこのプロジェクトが必ず成功すると思いました。

又我々が招待されましたロータリークラブの会員宅は眼をみはる立派な邸宅でしたが、それらの地元会員が援助してくれたらと誰しも思ったと思いますが、これとても国情の相異があるので一概には申せませんが何はともあれ、少額でも地元クラブが寄



付をし現物供与をしておることを知ることが出来たことは最大の収穫でしたし、WCSの目的が地元社会奉仕に振いたた

せることにあるとしたら、これが核となってより大きく前進すると存じます。

BROTHERHOOD CREED OF THE  
ROTARY CLUB OF PARANAQUE  
District 382, Philippines

and

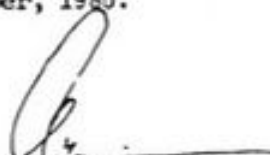
ROTARY CLUB OF NISHINASUNO  
District 255, Japan


That we believe in the advancement of international understanding,  
good will, and peace through a world fellowship of business and pro-  
fessional men united in the ideal of service.

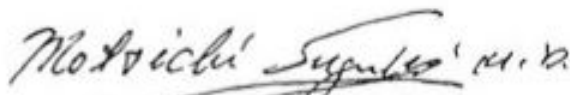
And may the friendship that binds us today be a legacy of the future  
generations.

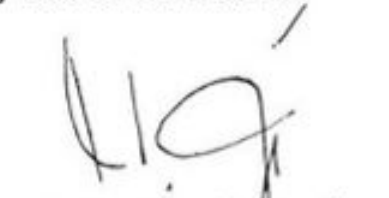
We, therefore, hereby affirm and acknowledge that by these presents,  
our organizations do enter into a brother chapter affiliation, and pledge  
that the organizations shall direct their efforts to deepen mutual under-  
standing between them through economic and cultural exchange based on  
social service, friendship and self-discipline; and further pledge that  
the affiliation be dedicated to the improvement and development of their  
communities as well as the preparation of the members of the organizations  
for business advancement and civic leadership.

Signed in Paranaque, Metro Manila, Philippines this 29th day of  
November, 1980.

  
WILFREDO L. LABAYEN  
President 1980-81  
Rotary Club of Paranaque

  
ROKURO KIMISHIMA  
President 1980-81  
Rotary Club of Nishinasuno

  
Masaoichi Suganuma, M.B.  
Charter President of  
Nishinasuno Rotary Club

  
Charter President of  
Paranaque Rotary Club

フィリッピン第382地区パラニアックロータリークラブと日本第255地区西那須野ロタリークラブの姉妹クラブ締結書

私達は国際理解と善意を推進すると共に実業人、専門職の世界的親交を通じて平和の中に奉仕の理想を実現することで意見が一致しました。

そしてこの友情は未来への遺産として今日私達にもたらされました。

私達はこの文書に依り、私達の組織が姉妹関係を開始することを承認致します。

この組織は双方の理解を深める効果と社

会奉仕を基盤とした友情と自己修養に努めることを誓約するものです。

組織の会員は市民の良き指導者として仕事を進め、地域社会発展に盡すことを前提としてこの組織に加入することを誓約するものであります。

1980年11月29日フィリッピン・メトロマニラ・パラニアックに於て署名した。

パラニアックロータリークラブ  
会長 ウイルフレド L. ラバエン

全クラブ創立会長

セサール G. ヤッコ

西那須野ロータリークラブ  
会長 君 島 六 郎

全クラブ創立会長

鈴 木 基 一



1980. 11. 29

フィリピンパラニャックロータリークラブ、西那須野ロータリークラブ両会長が和やかに姉妹クラブ締結書に署名し、そして握手しました。



382地区パレドガバナー ヘチャノバパストガバナーと共に  
コブランジャにて

We are taking the first step to rehabilitate children with cleft lip/palate defects. In our locality, there are 1.7 children born with this deformity for every 1,000 births. It could be true in yours, maybe even more.



We are committed to giving cleft lip/palate children the same chances of growth as normal children.



W. C. S. プロジェクト No. 1504の患児の実情調査



治療を説明する担当のアチェンサ先生(左)

## 第十章 レガスピーロータリークラブ

(382地区) との親善交流

— 地区組合わせクラブ —

## 組合せクラブとの交流

地区より3年間の組合せに指定された比国382地区レガスピーRCとの交流は、初年度がたまたま国際児童年でしたので、それに因んで児童画の交換を両クラブの友好親善を兼ねて実施した。

地域内小中学校の協力を得て150点の作品を1980年2月10日より3泊4日の日程でレガスピーに持参、6月に現地で展覧された。

参加者は、君島六郎、佐藤悦郎、江連和雄、土山幸三、小池保、小林正治、小滝信光、城田正男、戸田白鳳、中里正、君島隣、藤原春吉、笹沼幸雄の13名であった。

越えて12月にレガスピーRCより比国の児童画100点が送られて参り、中央公民館に

展示した。

翌年はマニラの全比四地区ロータリー研究会にて旧交を温め、最終年度の1982年6月にはレガスピーRCの会長を団長として会員家族十余名が来西、両クラブの親善を深めた。歓迎会では歌に踊りに華が咲き、大変に楽しい一夜であった。その後一行を塩原、日光に案内し、大変に喜ばれた。

メンギート会長、アンゲレス国際奉仕委員長、共々友情を深め得たことを喜び、今日だけでなく長く友好が続くことを希望され、この心遣いを忘れることは出来ないと申されました。一行の6才になるコーソン・カロラインちゃんが日本語で「ここに幸あれ」を上手に唄い、一層の親しさを増した。



レガスピー空港での歓迎



レガスピーRC会員との交歓  
(西那須野のホテルにて)



# レガスピーRCより来信

1980年12月

## 西那須野RC各位

お気付きのことと思いますが、私共には二つの絵画グループがあります。一つはレガスピー市セントアグネスアカデミーです。この学校は排他的なものであり、ベネデック教会の流れをくむカトリック学校です。そこの子供達は収入の高い家庭の者達です。もう一つの方は、アルベイのポーランキイにある、私が教師をしている公立学校の子供達です。ここの小学校は収入が低い、貧しい者の子弟です。

又こんなことにもお気付でしょう。描画技術は大変まちまちです。殆んどの子供達は貧しいので工芸作業には広告紙や色つき雑誌を使う位なのです。でも皆、あの特別な学校の子供達と親しいのです。

そんなこともあって、西那須野の子供達と手紙の交流をすることによって、自分達の絵のことを理解して欲しいと思っています。先頃絵を送ってくれた子供達や、こちらから送った絵を受けとった子供達と友達になれることを強く望んでいるのです。

どうか私共の子供達が分かるように、彼等の名前や話たいことを英語で書いて出してくれる様に頼んでみて下さい。亦、私達



の子供達が言いたいと思っている事を訳してあげて下さい。もし、西那須野の子供達が、こちらの子供達に分かる様に書いてくれれば、彼等も返事を書くことでしょう。

私共の子供達も、西那須野の子供達から手紙をいたゞければ感謝し、大変喜ぶと思います。こちらの子供達の名前と住所は絵の裏に夫々書かれています。

これが西那須野の子供達と、ポーランキイ北中央の子供達や、それに市の義務教育を受けているセントアグネスアカデミーの子供達との友情を深めるきっかけになるであります。私共の、そして子供達の友愛に満ちた意志表示を心よりお受け下さい。

敬 具

レディア・L・サロヤン

追伸

貴方々から届いた絵は、この6月、学期

初めに展覽致しました。と云うのは絵が届いた時は、もう学期末も終りになっていた

からです。

1982年7月9日

### 敬愛なる大塩様

先ず最初に我々の西那須野滞在中に我々にとって忘れることの出来ない素晴らしい経験をさせていたゞきました事をお礼を申し上げます。私達に対する友情は期待以上のものでした。

貴クラブの皆様はとても温かく大変親切にして下さいました。日光或いは西那須野を同伴して下さいましたロータリアン、特に上野駅まで出迎えてくれました佐藤さん、小沢さん、森さんのご尽力を深く感謝しています。

貴クラブの例会並びにその後の交流で出会ったロータリアンの皆様は、全員熱心に友達になろうとしてくれました。又西那須野まで通訳をしてくれるために貴方の娘、ゆみ、まで頼んでくれたことは忘れることが出来ません。

日光への特別のご案内はとても興味深い、

楽しいものでありました。神社やお寺等が素晴らしく、とても芸術的で、そして霧のか、ったそれは一層神秘的でありました。東照宮の歴史的なことをよく説明してくれたバーベリー氏にどうぞ感謝を述べて下さい。

最後にニュー岡部ホテルで貴方や他の会員と唄ったり、踊ったり、食事をしたりして、とても楽しいものでした。

私達にも皆さんをお迎えして喜んでいたゞける機会を待ち望んでいます。

有難うございました。貴方の家族やクラブの活動ニュースがありましたらお知らせ下されば幸いです。我々両クラブ間の理解と交流が深まることを望んでいます。

敬 具

Rene and Myrna

# 第十一章 バイセリアロータリークラブ との交流親善の十ヶ年

- (1) バイセリアとの交流写真集及び新聞報道
- (2) 友情のバイセリア —— 夏季訪米学生報告
- (3) 友情のかけ橋 —— バイセリア夏季交換学生を迎えて



パイセリアRC一行51名と記念撮影 1974年8月7日  
於西那須野中央公民館前



西那須野駅に一行を迎える



東京国際大会出席の途次再来西  
ポイヤー夫妻



ポイヤーパイセリアRC会長の西那須野クラブ例会卓話



バイセリアR. C. 於千本松農場  
ロイ・スミダ元会長と共に



バイセリア・  
セコイア大学正門にて



バイセリアRC例会にて



バイセリアRC会員



メキシコ料理店に於ける  
バイセリアRC歓迎会

1975～76年度 両クラブ間一年交換学生



リー・スコット・ロクナー  
(マウント・ホイットニー高校)



ドナ・ケイ・クラーク  
(マウント・ホイットニー高校)



永田 美佐江  
(大田原女子高校)



熊田 文子  
(大田原女子高校)

# 私たちの見たアメリカ

その裏と表と

## 高校生がつづる体験談

### すべて大きく陽気

日本の文字が多くてヒョコラ

礼儀が正しく質素

大切にされる奥さん  
SCHOOL OF  
JOURNALISM



ワシントン、朝日新聞社で記者講習会中

## 交歓高校生を米国に派遣



### 地元から20人選ぶ

11月10日、学校見学や民泊も

ワシントン、朝日新聞社で記者講習会中

ワシントン、朝日新聞社で記者講習会中

## VISALIA TIMES-DELTA

The Visalia Times and Newspaper-Print & News and Photos  
PUBLISHED WEEKLY - 1906-1910-11

## The Bakersfield Californian

ESTABLISHED 1871 - PUBLISHED DAILY - 1910-1911-12



Rotary President Receives Award

President of the Visalia Rotary Club, Fred H. ...



Visalia Rotary Club members ...



Visalia Rotary Club members ...

Visalia Rotary Club members ...



Visalia Rotary Club members ...



Visitors On Rotary Sponsored Tour

This group of 15 ...



Visalia Rotary Club members ...

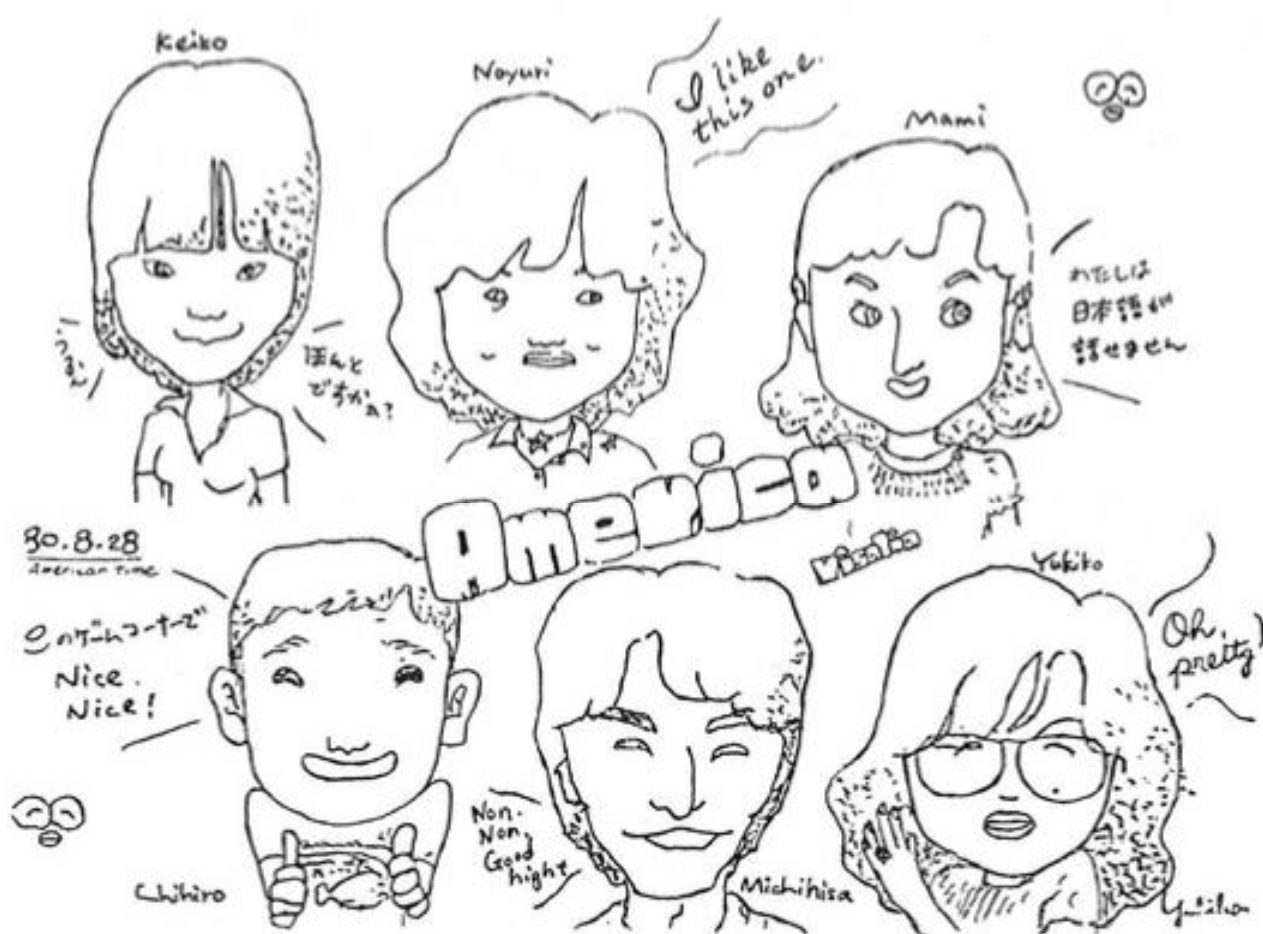


Visalia Rotary Club members ...

# (2) 友情のバイセリア

— 夏季訪米学生報告書 —

1980年8月2日~29日



# 訪米学生々徒



福本野百合



大塩まみ



鈴木裕紀子



郡司佳子



青山倫久



郡司千博





第441回例会歓送会の一行



ピーターソン市長に町長  
メッセージ、記念品贈呈



市庁舎にてバイセリア市長と共に



ジョン・クロウバイセリアRC会長(左)に迎えら  
れ訪米学生代表のバイセリアRC例会での挨拶



早速クラブのお土産の浴衣を  
着てクロウ会長のスピーチ



カルフォルニアは暑いネ



交歓スナップ

# 6人の留学生を激励

## 西那須野ロータリークラブ

### 米国の姉妹クに親善派遣



米国の姉妹クに親善派遣の6人の留学生

西那須野ロータリークラブは、今年七月二十九日、米国の姉妹クに親善派遣の6人の留学生を激励し、西那須野R.C.第441回例会で、訪米学生の社行会を開催した。

この例会は、西那須野R.C.の創立以来、初めて、訪米学生の社行会を開催した。この例会は、西那須野R.C.の創立以来、初めて、訪米学生の社行会を開催した。

# 下野新聞

発行所 下野新聞社  
 印刷所 下野新聞社  
 電話代金(0284)25-1111  
 郵便局発行済字第407  
 © 下野新聞社 1980

# 大野州新聞

発行所 大野州新聞社  
 印刷所 大野州新聞社  
 電話代金(0284)25-1111  
 郵便局発行済字第407  
 © 大野州新聞社 1980

## 大野州

## 国際親善使節として 訪米学生六名の社行会

### 西那須野ロータリークラブ



訪米学生の社行会 西那須野R.C.第441回例会で

西那須野ロータリークラブは、今年七月二十九日、米国の姉妹クに親善派遣の6人の留学生を激励し、西那須野R.C.第441回例会で、訪米学生の社行会を開催した。

この例会は、西那須野R.C.の創立以来、初めて、訪米学生の社行会を開催した。この例会は、西那須野R.C.の創立以来、初めて、訪米学生の社行会を開催した。

訪米学生は八月二日から西那須野市を訪れ、市内の各所を訪問した。

西那須野ロータリークラブは、今年七月二十九日、米国の姉妹クに親善派遣の6人の留学生を激励し、西那須野R.C.第441回例会で、訪米学生の社行会を開催した。

# 招 待 状

西那須野町長 阿久津 文 一 殿

1980年4月10日

私は西那須野町々長と多くの友達へ、私自身と他の多くの市職員の挨拶を伝えるようにレイ氏に頼みました。

私はシリック夫妻が西那須野町への短期間の訪問を楽しみにしておることを知っております。彼等は1974年の訪問の素晴らしい思い出を持っております。

学校が休みの間、西那須野町の6名の生徒が私達の市を訪問するよう招待するのが私達の希望であります。彼等は一ヶ月の滞在能力があると私は理解しております。

バイセリアロータリークラブと姉妹都市委員の家庭において、一ヶ月のバイセリア滞在が出来るとみております。

私達は、近々西那須野町からの訪問客とお逢い出来ることを楽しみに致しております。

レイノールド・A・ピーターソン 市長より

## バイセリアRCよりの挨拶状

西那須野ロータリークラブの皆様へ

1980年4月7日

バイセリアロータリークラブ及びその会員からご挨拶申し上げます。

私達は西那須野ロータリークラブとの名譽ある関係を非常に喜んでおります。私達の間では人と人との多くの交流を致して参りました。私達はこのような交流が将来も継続することの出来る様に希望致しております。私達はこの交流を通じて各々の異なる文化に接することが出来ますし、この様な連繫によって私達は特別な見識や理解が得られます。

私達バイセリアクラブの会員や、その他の人々も西那須野に好い思い出があり、彼等がもてなされた大変なご厚遇に感謝致しております。この様な楽しい経験をしました人は最早忘れることはないでしょう。

私達は西那須野からの訪問者と楽しく過ごしましたし、又私達の市を訪問して下さいますことを喜び希望しております。

レイ・シリック氏が今月貴方の町を旅行します。私達のクラブからの贈物として、バイセリア在住の芸術家ラルフ・ホーマン氏の手書きの皿を贈ります。この皿はバイセリア地方の大橋を描写したもので現在の文明前からこの谷にある天然木を象徴したものです。

西那須野のロータリアンがシカゴのロータリー大会の前後にバイセリアにおいで下さることを私達は希望しております。出来ますればシカゴ大会で私達の次期会長のジョン・クロウ氏と連絡をとって下さい。

敬 具

バイセリアロータリークラブ

会 長 スタンレー・シンブソン

副会長 ジョン・クロウ

# 西那須野町長返書

1980年5月20日

バイセリア市長

アーノルド・A・ピーターソン 殿

私はバイセリア市長及び市民に、西那須野町を代表して挨拶を申し上げることを光栄に存じます。

先日西那須野を訪問されましたシリック夫妻に託されました貴方からの素晴らしいメッセージを受取り感激致しております。

過去に両市間には多くの交流があり、良い楽しい思い出を夫々にもっております。バイセリアを訪問した多くの町民は、その厚遇に今も感謝をしており、この交流が今後も続きますことを希望しております。

レイ氏に託されました貴方からの手紙によりますと、今夏学校が休暇中1ヶ月間学生6名をバイセリアにご招待下さるとのこと、その有意義なプランに大変喜び、早速人選を致し、同封メンバー表の6名を決定致しました。訪問団は多分7月下旬より8月上旬までの1ヶ月バイセリアを訪問し滞在することになると思いますので宜敷くお願い致します。

尚訪問学生は西那須野ロータリークラブ会員の女子でございます。詳細なスケジュールは後日ご連絡致しますが、このメンバーを受け入れて下さるかどうか、ご返事いただければ幸いです。

訪問学生の往復旅費は各自で負担致しますが、貴市滞在中はホームステイを希望致しております。このプランが実現して若い人々が貴国の高い文化に接し相互理解が一層進みますことを希望しております。

貴市の益々の発展と両市間の益々の交流を希望し祈念致します。

敬 具

西那須野町長 阿久津 文 一

#### バイセリア市訪問学生

鈴木 裕紀子 (慶応義塾大学)  
福本 野百合 (宮城教育大学)  
青山 倫久 (明治大学)  
大塚 まみ (大田原女子高校)  
郡司 佳子 (三島中学校)  
郡司 千博 (三島中学校)

#### 連絡担当者名及び住所

鈴木 基一  
329-27  
栃木県那須郡西那須野町永田町11-3

## 西那須野RC会長返書

1980年5月20日

バイセリアロータリークラブ会長

スタンレー・シンプソン 殿

西那須野ロータリークラブ及び会員を代表してご挨拶を申し上げます。

貴クラブ会員レイ・シリック氏に托されましたお手紙とラルフ・ホーマン氏製作の手書きの皿を受取りました。ご厚志を感謝致します。

両市及び両クラブ間に続いております交流を大変名誉に思い今後も相互理解親善の為に続くことを希望しております。

6月の国際大会の前後にバイセリアを訪問下さるようにご招待を受けましたことを感謝致します。当クラブより会員及び家族13名が参加致しますが、スケジュールの関係で今回は貴市を訪問することが出来ませんのを大変残念に思います。

貴クラブのジョン・クロウ副会長が参加される由、シカゴで彼とお逢い出来れば幸いです。当クラブのメンバーは5月31日日本航空62便にてロサンゼルスに午前11時に到着し、ユナイテッド航空192便13時30分に乗換えて19時にシカゴに到着致します。コンチネンタル・プラザ・ホテルに3泊し6月3日の朝カナダに向う予定です。その間にお逢い出来ればと思います。

当クラブから副会長で次期会長の君島六郎氏が参加しますし、創立会長の鈴木基一氏も参加しておりますので、何れかにご連絡いただければ幸いです。ホテルの電話番号は312-943-7200です。

先月シリック氏が当地訪問の節、当町長阿久津文一氏宛にバイセリア市長レイノールド・A・ピーターソン氏からのメッセージを持参下さいました。そして今夏当町の学生6名をバイセリアにご招待下さるとのことでしたので、町長とも相談致し、当クラブの会員の子第6名を入選致しバイセリア市長宛に通知致しました。貴市訪問期間は7月下旬から8月下旬の1ヶ月間を予定しておりますので宜敷くお願い致しますと共に、バイセリア市長さんにご連絡下さいますことを希望します。この計画の成功を祈念致しております。

貴クラブの発展と両クラブ間の親善を祈念して

敬 具

西那須野ロータリークラブ

会 長 伊 藤 俊 三

#### バイセリア市訪問学生メンバー

鈴木 裕紀子 (慶応義塾大学)  
福本 野百合 (宮城教育大学)  
青山 倫久 (明治大学)  
大塩 まみ (大田原女子高校)  
郡司 佳子 (三島中学校)  
郡司 千博 (三島中学校)



## バイセリア市訪問学生名簿

### 福本 野百合

宮城教育大学二年生  
1960年4月28日生  
住所：西那須野町大和町6-5  
電話：(6)-0440  
父：福本 治夫  
父の職業：牧師

### 大塩 まみ

大田原女子高校二年生  
1963年4月29日生  
住所：西那須野町南町3-9  
電話：(6)-0626  
父：大塩 直文  
父の職業：医師

### 鈴木 裕紀子

慶応義塾大学二年生  
1960年5月12日生  
住所：西那須野町永田町11-3  
電話：(6)-1100  
父：鈴木 基一  
父の職業：医師

### 郡司 佳子

三島中学校三年生  
1965年6月6日生  
住所：西那須野町三島37  
電話：(6)-4637  
父：郡司 昌佳  
父の職業：農機具販売

### 青山 倫久

明治大学一年生  
1960年9月4日生  
住所：塩原町大字下塩原364  
電話：(2)-2921  
父：青山 栄一郎  
父の職業：ホテル

### 郡司 千博

三島中学校二年生  
1966年7月27日生  
住所：西那須野町三島129  
電話：(7)-2537  
父：郡司 征夫  
父の職業：不動産販売

## ホスト家庭表

期間	ホスト名	学生々徒名
8月2日 ～25日	Duane & Jan Scott 350 N. Fulgham 電話：733-2202	郡司佳子 郡司千博
8月2日 ～25日	Tom & Kay Boyer 1516 Cambridge 電話：732-7524	青山倫久
8月2日 ～13日	Roy & Linda Sumida 344 N. Atwood 電話：734-4433	鈴木裕紀子 福本野百合
8月14日 ～25日	Marybeth Porter 1501 Sierra Drive 電話：732-3206	鈴木裕紀子 福本野百合
8月2日 ～25日	Ted & Constance parks 1819 Noyes Road 電話：733-9889	大塩まみ

## 援助者電話番号

総括案内 — Tom Boyer	事務所	733-2010
	住宅	732-7524
総括案内 — Ray Schlick	事務所	733-3997
	住宅	798-0075
言語 — Roy Sumida	事務所	732-8674
	住宅	734-4433
		Linda Sumida

	Akemi Walker	住 宅	733-3014
	Meiko Alvarado	事務所	733-0400
		住 宅	733-5185
医 療	— Dr. William R. Winn	診療所	732-4181

## 日 程 表

- 8月2日 バン・アメリカン航空12便にて正午過ぎ、サンフランシスコ着シリック氏の家族に迎えられ、ドライブにて午後7時バイセリア市到着。各人ホストファミリーへ。
- 8月3日 歓迎スイミングパーティー
- 8月4日 ローラースケートをホストファミリーの人と楽しむ。
- 8月7日 セコイヤにあるショーワさんの別荘に行く。この日からYMCAのセコイヤキャンプ場で2泊3日のキャンプに入る。
- 8月9日 セコイヤ国立公園をボイヤー夫妻の案内で廻る。
- 8月10日 バイセリア市内の野球チームの試合を各ホストファミリーと見る。
- 8月11日 スミダさんの協力で西那須野一行6名の日本食による会食（鈴木・福本ホスト役）
- 8月12日 ディズニールランド終日観光。
- 8月13日 バイセリアロータリークラブの例会に出席。君島会長のメッセージと記念品をバイセリア会長に贈り、団長が代表して英語で挨拶。市庁舎にバイセリア市長を公式訪問し、阿久津町長のメッセージと記念品を贈呈懇談。
- 8月14日 セコイヤカレッジホールでシェクスピア劇「真夏の夜の夢」を観劇。
- 8月17日 アデア氏宅招待夕食会。
- 8月20日 ヨセミテ国立公園観光。
- 8月21日 ショア元会員宅招待夕食会。

- 8月22日 ロスアンゼルス観光。
- 8月25日 カユカス海岸のシリック氏別荘滞在。
- ～28日
- 8月28日 ポーターさん一家、ショワ氏夫妻、ロッキー氏夫妻に見送られ、14時40分パン・アメリカン航空11便の機上の人となり一路故国へ。
- 8月29日 午後5時20分全員無事成田空港着。君島会長及び家族に迎えられバスにて西那須野帰着。

# ま と め

青少年奉仕委員長

バイセリア連絡担当者

鈴木基一

4月バイセリアロータリークラブ、シリック氏の突然の訪日で、もたらされた学生招待の報に、阿久津町長、伊藤直前会長も多分に面喰らったと思われます。然し、相手方の善意を考える時、当方の都合だけで処理することもならず思案しましたが、伊藤直前会長のGOの英断で、このプランを進めて参り、実施は君島会長年度と相成りました。

クラブ創立間もない頃、たまたま私が会長をしております、当時の524地区のローレンス・ライラ地区ガバナーに手紙を出しました。時に1972年7月でした。その返事に「シヨア氏を当クラブに入会させて欲しいことと、バイセリアRCの当時のロイ・スミダ会長を紹介して下さい」この時点からバイセリアとの交歓が開始され、以後毎年の様に種々なる行事がもたれました関係でバイセリアの委員会のメンバーも皆旧知の間柄でもありましたし、又私の娘もその一員として訪米致すことになりましたので、私は喜んでコンタクトパーソンをお引き受け致しました。

この報告書にあります関係文書の他に、時間的關係で度々国際電話で連絡をとりました。人と人の繋りが非常に大切であると痛感すると共に有難く思いました。お蔭で仕事は思ったよりもスムーズに参りましたことを感謝致したいと思います。

今年度、クラリッヒRI会長の言葉の中に「――魚を与えるのではなく、ロータリーでは魚をとる方法を教えよ」とあります。このたびの派遣学生を大学生、高校生、中学生とし、今回は引率者を無くし、グループに自主性をもたせ、種々なる経験をさせたことはロータリーRI会長の言葉にも沿いますし、今回の特色であったと思います。

訪米学生達はそれを美事になしとげて、私達の期待に答えてくれました。又中島ガバナーの本年度のテーマであります「思いやり」をも年長者は身をもって実践してくれたときいております。そして亦、日本人として、またロータリアンの家庭の子女としての誇りをもって、日々生活し、国際親善、国際理解に努めてくれたことを関係者の一人として大変嬉しく思っております。

団長の福本野百合さん報告の言葉に「――言葉という一つの重要なコミュニケーションを失った人間社会の中で生活してきたことになるわけですが、言葉を越えた“他人を理解する心”を知りました。未熟な英語を、一生懸命聞こうとしてくれるのです。言葉は大切ですけれどもそれはあくまで手段であって、すべてではなく、それを越えた心と心の交わりというものを感じました」とありました。又娘裕紀子も「――なにしろ大きいということ肌で感じてきました。そして勿論お世話になったホストファミリーの方々はじめ、ロータリークラブの方々の心も」とも云っております。

この事は渡米した6名すべてが感じとったことだろうと思いますし、この事を私達は願って子供達をアメリカへ送り出したのです。その報告を聞きまして本当に意義があったのだと思ったのは私だけではないと思います。

この子等の心はやがて大きく成長していくことと信じております。又先入観念の余り無い中に、脳の柔らかい中に異質の文化に接する事がどんなに大切に素晴らしいものであるかも知りました。素朴な気持ちの若い人を決して我々は失望させてはならないと思うのです。今育らつつある若い世代にどうやっていいイメージを植えつけることが出来るか、これがこれからの命題でもあると思います。又これから両市、両クラブ間のイメージアップをどうするかも今後は考えなければならないと思います。

最後に関係の諸兄に感謝を捧げると共に、その友好の輪の益々大きくなることを念じつつ擱筆致します。

# (3) 友情のかけ橋

—バイセリア夏季交換学生

を迎えて—

1981年8月14日～28日

## バイセリアよりの来信

1981年3月24日

鈴木基一博士へ

我々のバイセリア姉妹都市委員会は2月に集って1981年8月に計画されている日本への学生訪問を協議致しました。貴方達の委員会がこの件について対案を出すことを希望致します。

当委員会は今、三木市、西那須野訪問を希望する学生のリストをもっております。その中6～8名の学生を公平に選定致します。

仮にこのグループはロスを8月3日に出発して、8月4日に大阪に着きます。三木の委員会が彼等の飛行機を迎えて家庭滞在のめんどうをみてくれることを希望します。

そして三木委員会が8月17日早朝の新幹線に乗せて、西那須野の委員会が東京で迎えられる様に提案したいと思います。そして西那須野の委員会が西那須野滞在のめんどうをみた上で、8月31日の東京よりロスへの便で送ってくれる様に頼みたいと思います。

飛行機、汽車の切符並びに日本での小遣いは学生各人で責任を負います。

これらの事が可能かどうか返事をいたしたいと思います。この度の訪問が皆さんにもっとも楽しくなる様に提案して欲しいのです。

敬 具

バイセリア姉妹都市委員会委員長

トーマス・P・ボイヤー



## 来 訪 学 生 名 簿

氏 名	年 齢	学 校	父 の 職 業	参 考 事 項
リサ・ダーベンポート LISA DAVENPORT	19 才	セコイア 大 学 生	バイセリア市公 共土木部々長	現在ミス・カルフォルニア10代のタイトル 保持者、アメリカ各地を旅行し、ブラジル にも数週間滞在したことがあります。
アン・パウエル ANN POWELL	19 才	セコイア 大 学 生	弁 護 士	バイセリア市計画部に於いてパートタイム で実習をし乍ら働いています。アメリカ各 地を訪問旅行したことがあります。
クラウディア・ペティ CLAUDIA PETTY	16 才	ゴールド ウエスト 高 校 生	退 職 (失明のため)	二人が受けられる奨学金のうちの一入であ ります。家計をたすける為に一週に20~30 時間働いています。
ウィルマ・ディーパースルート WILMA DIEPERSLOOT	16 才	レソド ウッド 高 校 生	酪 農 家	二年目の奨学資金受賞者、姉妹3人兄弟2 人、卒業後は医学の研究をすることにして います。
メリー・パークス MARY PARKS	18 才	セコイア 大 学 生	退 職	大学の一年目を終了、アメリカの各地を旅 行したことがあります。

## バイセリア交換学生日程

1	8/14 ㊦	新神戸発 10:54 東京着 13:32 三木クラブよりひきつぎ 東京	(西那須野到着時間の連絡) 上野発16:06 西那須野着18:14 国際奉仕委員会お迎え、ホスト宅へ	×
2	15 ㊧	西那須野町長表敬訪問 町史跡見学と八木沢氏訪問	夜 盆踊り大会参加 中央公民館前 9:00AM 集合出発	○ ×
3	16 ㊨	フリー		○ ○ ○ ○
4	17 ㊩	那須周辺見学観光	中央公民館前 9:00AM 集合出発	○ ×
5	18 ㊪	クラブ例会出席、紹介挨拶	クラブ例会12:30 足銀 研修生との懇談会 例会終了後アジア学院見学と夕食を一緒に	○ ×
6	19 ㊫	フリー		○ ○ ○ ○
7	20 ㊬	日光観光 鬼怒川温泉泊	中央公民館前 9:00AM 集合出発 お荷物を持って集合出発場所へ 会員岡部君のホテル ニュー岡部泊	○ ×
8	21 ㊭	黒羽クラブ例会出席 雲巖寺見学	日塩道路を通過してホスト宅へ～黒羽直行 ホストファミリー前半から後半へ 大雄寺にて坐禅、乗馬を楽しむ	○ ×
9	22 ㊮	フリー		○ ○ ○ ○
10	23 ㊯	教会ミサ 自由参加	昨年度渡米学生との交歓会	○ ○ ○ ○
11	24 ㊰	フリー	益子焼見学及び一万人プールにて水泳	○ ○ ○ ○
12	25 ㊱	会場千本松レストハウス 時間12:30 クラブ例会出席 お別れ会	ホストファミリーの方々もどうぞ御参加下さい。 例会会場変更於千本松レストハウス12:30	○ ○ ×
13	26 ㊲	西那須野を離れ東京へ	"西那須野駅 13:57PM発" 夕刻西那須野を出発します。お見送り下さい。	○ ○ ×
14	27 ㊳	はとバス観光とショッピング	都内名所見学とショッピングを楽しんでいただきます。	
15	28 ㊴	帰国準備 バイセリアに向って帰路"羽田"		



西那須野駅到着



例会出席



盆踊大会参加



華厳滝にて



日光観光

## バイセリアRCよりの交換学生 歓迎例会に於ける会長挨拶

1981年8月18日

会長 大 塩 直 文

本日は私達のクラブの友人であるバイセリアRCとの友好の証として、5名の交換学生をお迎え出来ました事は、当西那須野RC会員全員の大きな喜びであります。

先に当クラブでは6名の交換学生が昨年8月にバイセリアRCの友情により米国を訪れ、バイセリアRCの会員の皆様に非常に心暖まる歓迎をうけました。

皆さんは今月の始め、三木市に来て以来、色々と風俗や習慣の異なる処での生活に、きっとびっくりし、又とまどった事と存じます。西那須野へ来てホストの家族の人々

も言葉はうまく出来なくても、又豪華なおもてなしが出来ないと存じますが、きっと心と心の結びつきが出来つ、あると思います。あと十日間を楽しく、元気に過ぎて下さい。そして日本と米国、西那須野とバイセリアとのかけ橋になって下さい。

会長を始め、会員は皆この様に考えています。そして新しい若いお友達の出来たことを喜んでおります。

本日は例会出席、ありがとうございました。

# バイセリア市より来られた 交換学生に対する歓送のことば

大 塩 直 文

今月14日、バイセリア市より来られた5名の美しい、そしてお若いお客様をこの町にお迎えして以来、色々と会員の皆様にお世話様に相成りました。早いものです、間もなくこの西那須野町を去って行きます。本日は特別にこの日の例会を皆様と共に別れをする会に致しました。

当クラブとバイセリア市RCとの交流は、先に当クラブ会員であったW・ショーワ氏に引率された高校生のバイセリアRCの訪問に始まり、その後毎年会員の交流や交換学生等、その絆は太く、又時には細くなった時もありますが続いて参りました。近くは昨年度、本日ここに出席しています6名の学生がバイセリアRCを訪問致しまして色々とRC会員のファミリーにも心暖まる歓待を受けました事は皆様も御承知の事と存じます。

本日は若い、美しいピチピチした5名の方々は当クラブの会員9名の家庭にてホームステイをして各人各様な歓待を受け、親身の御世話をいただきました。オボンダンス、町内史跡めぐり、那須登山、宇都宮、益子ショッピング、日光観光、黒羽RC訪

問、大雄寺、雲巖寺めぐり等、数えるいとまのないスケジュールでございました。ここに特に御報告致しておきたいのは会員の岡部さんが、ご自分の鬼怒川ニュー岡部をこの5名と随行の人々に無料で開放していただき、彼女等も「こんな立派なホテルにはドレスでなくてはいけないのではないかなどと入るのを一瞬とまどって、よく説明されてやっと入った程でした。岡部さんもパーティーに出席され、各人との交流もたれました。ハズバンドとの日本への旅行にはきっと日光とこのホテルに一泊したいとって感謝の一端を披瀝していました。又ホテル従業員の方々も細やかな心くばりをしていただきました。ここに岡部さんに感謝の言葉をささげたいと存じます。有難うございました。

又、この計画の直接の担当者である国際奉仕委員長マリオ・C・バーベリーさんを初め、吉田さん、大武さんのお三人には当初より色々と心労され、心身共に非常なご苦勞をおかけ致しました。この他、陰になり日向になってこの計画のためご協力いただいた方々にもこの席をお借り致しまして

御礼申し上げます。感謝をこめて皆様の拍手をいただきたく存じます。

挨拶と女性のスカートは短かい方がよいと申します。

(バーベリーさん、上手に訳して下さい)

最後になりましたが5名の方々に申し上げます。

皆さんはバイセリア市とバイセリアRCとを代表してこの西那須野町にやって来ました。きっと風俗や習慣の違いや言葉の交歓の不自由さも加わって、とまどった事と存じます。しかし私達やホームステイのファミリーの方々は一生懸命に努力して貴

女方と仲よくなって、永い永いお友達になる様に心を使いました。きっと賢明なお嬢さん方ですから、わかって下さった事と存じます。先に申しました様に、この次は良きハズバンドと御一緒に来日して下さい。その日をお待ちしています。

帰国迄あと数日が残されるだけになりました。この数日を楽しく過ごして下さい。

最後に米国にいますご両親やファミリーに幸多かれと祈りますと共に、貴女方に神の加護のあらん事を祈りながら、お送りの言葉といたします。

ありがとうございました。

## \*\*\*\*\* 学生代表挨拶 \*\*\*\*\*

リサ・ダーベンポート

皆さんに此の様に数日間厚く迎えて下さった暖かい心に対して非常に感激にたえません。特にホストの皆さんには家庭的に迎えられて有難うございました。又ロータリーがあってこそ私達は日本で此の様に過ご

す事が出来ました。ロータリーにも感謝致します。日本の学生さんも是非バイセリアに来て下さい。色々な処を案内致します。

サンキュー アリガトウ。

\*\*\*\*\* 町長代理挨拶 \*\*\*\*\*

市原友吉 助役

例会にお招き頂きまして有難うございました。尚バイセリアの若いお友達のお送りをする会に出席出来ました事大変うれしく思っています。先日15日にはバイセリア市長さんよりの贈り物を届けて頂きまして有難うございます。ロータリークラブの皆様にお知らせしなくて失礼致しましたが立派な時計でした。バイセリアには特産の大木がありましてその木を台にして嵌め込んだ掛時計です。私共庁舎は日本一オンボロ建物だそうですが、その中でも最も良いと言う応接間に早速掛けさせて頂きました。会員の皆様も是非御覧になって頂ければ有難いと思っています。学生の皆さんをお世話して下さいました会員の方はじめ多くの方々さぞ大変な事でご苦勞の事であつたらうと感謝いたして居ります。尚若いお友達間もなくお帰りになる訳ですけれども西那須野町のみならず栃木県、日本の国の人情、風俗、自然環境に触れまして、どの様にお感じたかは存じませんが、どうぞ見

た儘、聞いた儘を帰りましたらアメリカの人々に伝えて下さいましてうそのないお付き合いを続けさせて頂き度い。お互いの国の平和を維持する為に皆さんの力が土台になって下されます事を折り度いと思ひます。残念な事に日本の秋は素晴らしいです。これからです。今皆さんをお送りしてしまうのは誠に残念ですけれども又後に西那須野訪問をお待ち致して居ります。今日お集まりのすべての方々に幸がおとずれます様お祈りを致しまして挨拶といたします。

大変細かな贈物ですが、若い皆さんには封筒に入った5ヶの物ですが、1980年が西那須野町が開拓100年の年でありまして、その時に皆さんにお分けしました物です。西那須野町のマークの入った栓ぬきです。お持ち帰りの上机の上にでも置いて下さい。お荷物になると思いますがバイセリア市長さんに細かな物ですが贈物したいと思ひます。市長さんに呉々もよろしくと申し伝えて下さい。

# 大野川新聞



訪日学生と西尾製菓で迎えるロータリークラブ

## 西尾製菓町ロータリークラブ バイセリアから訪日学生五名を招待 国際親善の橋渡しに努力

西尾製菓町ロータリークラブは、バイセリアから訪日学生五名を招待し、国際親善の橋渡しに努力している。この学生は、西尾製菓町ロータリークラブのメンバーと交流し、日本の文化や生活を知り、親善関係を築くことに努めている。



西尾製菓町ロータリークラブで訪日学生五名と交流

# 下堅新聞

## 盆踊りにびつくり 五人の交換留学生

西尾製菓町ロータリークラブのメンバーと交流するバイセリアからの訪日学生五名は、盆踊りに参加し、日本の文化に驚きと喜びを感じた。彼らは、この貴重な体験を通じて、国際親善の心を育いた。



訪日学生は、盆踊りに参加し、日本の文化に驚きと喜びを感じた。彼らは、この貴重な体験を通じて、国際親善の心を育いた。

## 会員達の善意の奉仕を胸に 来日バイセリア交換学生帰国の途へ 町からバイセリア市長に土産を託す



バイセリアからの交換学生に西尾製菓町の土産を贈る

西尾製菓町ロータリークラブのメンバーは、訪日学生五名に感謝の意を表し、町から贈った土産を託した。彼らは、この貴重な体験を通じて、国際親善の心を育いた。



訪日学生と西尾製菓町ロータリークラブのメンバー

西尾製菓町ロータリークラブのメンバーは、訪日学生五名に感謝の意を表し、町から贈った土産を託した。彼らは、この貴重な体験を通じて、国際親善の心を育いた。

# 栃木新聞



訪日学生と西尾製菓町ロータリークラブのメンバー

# サンケイ



訪日学生と西尾製菓町ロータリークラブのメンバー